

山梨県内分布調査報告書

(平成26年1月～12月)

2015.3

山梨県教育委員会

山梨県内分布調査報告書

(平成26年1月～12月)

2015. 3

山梨県教育委員会

序

本書は、文化庁の補助金を得まして実施しております「山梨県内遺跡分布調査事業」の平成26年1月から同年12月までの期間に行った調査の報告書です。

本調査事業では、試掘・確認調査11件、立会調査12件の合計23件を12ヶ月間で実施しました。昨年度の40件と比較しますと4割程度減少したことになります。

試掘・確認調査は、国道20号線大月バイパス建設事業等の国道建設関連・甲府駅南口修景事業等の都市計画事業関連・県営住宅整備事業関連・県立学校整備事業関連等に伴いまして、県内各地で実施いたしました。その結果、国道20号線大月バイパス建設事業、都市計画路「古府中浅原橋線」街路事業、甲府駅南口修景事業の3件で本調査が必要と判断されました。

一方、立会調査は、甲府地方家庭裁判所都留支部庁舎整備関連・県立学校整備関連・河川改修関連・急傾斜地対策事業関連・都市公園関連等12件を実施しました。その結果、甲府地方家庭裁判所都留支部本庁舎建設事業では、建設工事に先立って本調査が必要であり、都留高等技術専門学校解体事業では、今後の事業内容によっては本調査が必要となることを確認いたしました。この調査結果が、今後の埋蔵文化財の保護・保存及び公共事業との円滑な協議に役立つことを希望しております。

最後に、当センターでは今後とも埋蔵文化財・史跡の調査研究・保護・保存・活用に努めて参りますので、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

2015年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻 與志夫

例　　言

- 1 本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成26年1月から同年12月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘・確認調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県の道路建設事業、建物等建設事業、公園整備事業などの試掘・確認調査結果と国・県の建物建設事業、急傾斜地崩壊対策事業、河川改修事業、公園整備事業などの立会調査結果を収録している。
- 3 調査結果の報告については、各事業の調査担当者が行い、その報告に基づき吉岡弘樹・浅川一郎が編集した。なお、各調査担当者については、本文に明記した。
- 4 本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 5 試掘・確認調査作業員は次のとおりである。(敬称略・順序不同)
国道20号線大月バイパス建設事業(鮫田勝夫、千野富子、水上喜正)、新山梨環状道路東部区間建設事業(北野礼子、内藤敏夫、水上喜正、望月孝次)
- 6 本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。(順不同)
国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、東京高等裁判所、山梨県産業労働部(産業人材課)、山梨県県土整備部(道路整備課、都市計画課、建築住宅課、営繕課)、観光部(観光資源課)、山梨県中北建設事務所(道路課、都市整備課)、山梨県峡東建設事務所(河川砂防管理課)、山梨県峡南建設事務所(河川砂防管理課)、山梨県新環状・西関東道路建設事務所(建設課)、山梨県警察本部、山梨県韮崎警察署、甲府市教育委員会

凡　　例

- 1 各事業の位置図は、1/25,000のスケールを基本としている。
- 2 図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
- 3 実測図及び写真は主要なものに限った。

本文目次

序

例言・凡例

目次

県内分布調査全体事業位置図.....1

I 試掘・確認調査

1 国道20号大月バイパス建設事業（JR地区）.....	2
2 都市計画道路「古府中環状浅原橋線」街路事業《甲府城下町遺跡》.....	4
3 甲府駅南口周辺地域修景計画事業（中央分離帯）《甲府城下町遺跡》.....	5
4 新山梨環状道路東部区間建設事業（甲府市小曲町地内）.....	6
5 国道141号絵見堂交差点改良事業《宮ノ前第4遺跡・宮木遺跡》.....	7
6 県営住宅富浜団地駐車場整備事業《南堀之内遺跡》.....	8
7 県営住宅一宮団地駐車場整備事業《北中原遺跡》.....	9
8 県営住宅八田団地駐車場整備事業《坂の上姥塚遺跡》.....	10
9 菲崎警察署穴山駐在所移転新築事業《能見城跡》.....	11
10 県立かえで支援学校分教室体育館建設事業《狐原遺跡》.....	12
11 曾根丘陵公園整備関連《鍋弦塚東遺跡》.....	13

II 立会調査

12 甲府地方家庭裁判所都留支部本庁舎解体事業《谷村城跡》.....	14
13 都留高等技術専門校校舎解体事業《沖大原遺跡》.....	15
14 県立かえで支援学校分教室格技場他解体事業《狐原遺跡》.....	16
15 県立都留興譲館高校第一期建設電気設備事業《三ノ側遺跡》.....	17
16 駒沢川改修事業《熊野南遺跡・柵田遺跡》.....	18
17 火打石急傾斜地崩壊対策事業《火打石遺跡》.....	19
18 舟久保急傾斜地崩壊対策事業《馬場道上遺跡》.....	20
19 押出沢急傾斜地崩壊対策事業《押出沢遺跡》.....	21
20 国立公園等整備事業三湖台園地整備事業.....	22
21 曾根丘陵公園水道管移設事業.....	23
22 曾根丘陵公園方形周溝墓広場ベンチ等撤去事業《上の平遺跡》.....	24
23 曾根丘陵公園水道管漏水修理事業.....	25



平成26年県内分布調査全体事業位置図

1.国道20号大月バイパス建設事業（JR地区） 2.都市計画道路「古府中環状浅原橋線」街路事業《甲府城下町遺跡》 3.甲府駅南口周辺地域修景計画事業（中央分離帯）《甲府城下町遺跡》 4.新山梨環状道路東部区間建設事業（甲府市小曲町地内） 5.国道141号絵見堂交差点改良事業《宮ノ前第4遺跡・宮木遺跡》 6.県営住宅富浜団地駐車場整備事業《南堀之内遺跡》 7.県営住宅一宮団地駐車場整備事業《北中原遺跡》 8.県営住宅八田団地駐車場整備事業《坂の上姥塚遺跡》 9.韋崎警察署穴山駐在所移転新築事業《能見城跡》 10.県立かえで支援学校分教室体育館建設事業《狐原遺跡》 11.曾根丘陵公園整備関連《鍋弦塚東遺跡》 12.甲府地方家庭裁判所都留支部本庁舎解体事業《谷村城跡》 13.都留高等技術専門校校舎解体事業《沖大原遺跡》 14.県立かえで支援学校分教室格技場他解体事業《狐原遺跡》 15.県立都留興譲館高校第一期建設電気設備事業《三ノ側遺跡》 16.駒沢川改修事業《熊野南遺跡・柵田遺跡》 17.火打石急傾斜地崩壊対策事業《火打石遺跡》 18.舟久保急傾斜地崩壊対策事業《馬場道上遺跡》 19.押出沢急傾斜地崩壊対策事業《押出沢遺跡》 20.国立公園等整備事業三湖台園地整備事業 21.曾根丘陵公園水道管移設事業 22.曾根丘陵公園方形周溝墓広場ベンチ等撤去事業《上の平遺跡》 23.曾根丘陵公園水道管漏水修理事業

1 国道20号大月バイパス建設事業（JR地区） 試掘

所在地	大月市花咲地内	調査期間	平成26年1月14日～3月7日
担当者	田口明子	調査面積	600m ²

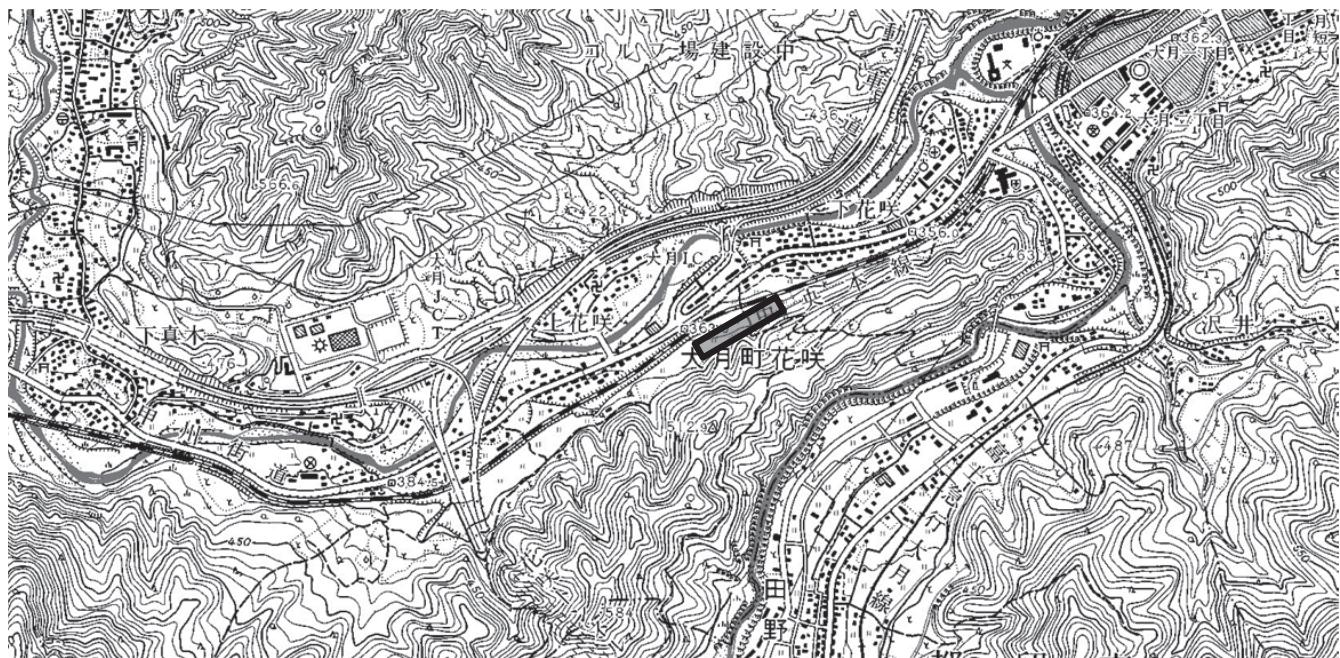
調査経緯及び事業内容と結果

試掘対象地は桂川右岸であり、東西約500m、南北約15～30mの範囲で、土地利用は水田、畑、荒地、針葉樹林と多様である。調査は、ミニバックホーで西から1号～42号のトレンチを掘削して行った。

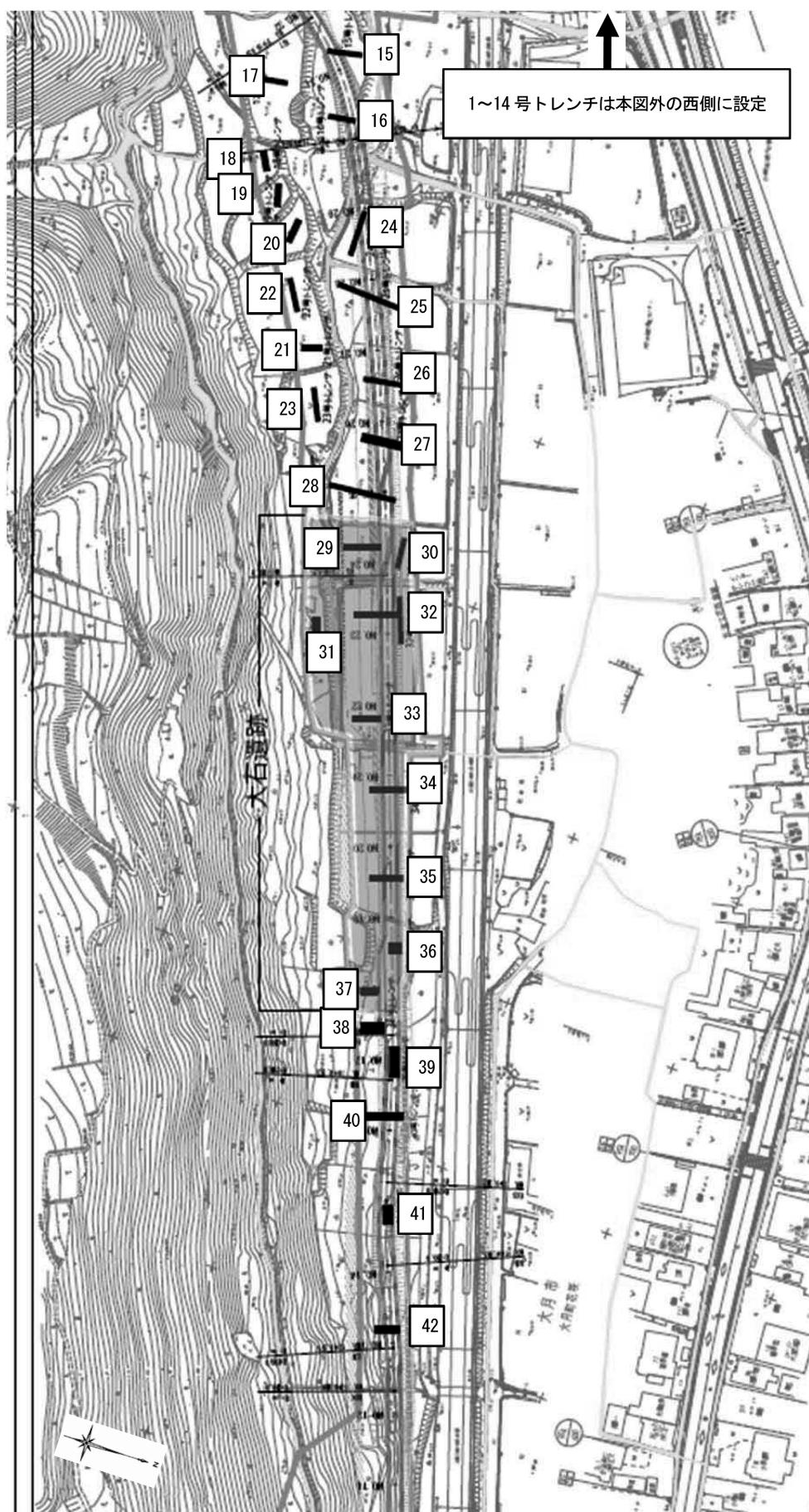
1～31号トレンチからは遺構・遺物は確認されなかった。32号トレンチでは現地表面から約1.4m下の暗褐色粘質土層（6層）を掘り込む土坑1基が確認され、約2m下の黒褐色粘質土層（8層）より縄文時代前期の土器片が複数出土した。この8層はトレンチの北側約4mの範囲で確認されたが、東・西端はトレンチ外へ続く。34号トレンチでは現地表面から約1.4m下の暗褐色粘質土層（6層）から古代の土師器・須恵器などの破片が複数出土し、約1.65m下の暗褐色粘質土層（7層）上面で南北約1m×東西約0.65mの土坑を確認した。35号トレンチでは現地表面から約1.8m下の暗褐色粘質土層（5層）上面で径約0.6mの焼土跡を確認した。36号トレンチでは現地表面から約2.2m下の暗褐色粘質土層（7層）から古代の土師器片1点が出土した。37号トレンチの7層は36号トレンチの7層と同層で現地表面から約1.9m下にあり、古代の土師器片1点が出土した。38・40・41号トレンチの表土層（1層）からは近世・近代の陶磁器片等が若干出土した。39号トレンチでは現地表面から約1.8m下の黒褐色粘質土層（4層）から古代の土師器片が1点出土した。42号トレンチからは遺構・遺物は確認されなかった。

試掘の結果、32～37号トレンチまでの間に縄文時代と古代の遺構・遺物が確認された。30号トレンチでは遺構・遺物は確認されていないが、地形の制約からトレンチの掘削深度が現地表面から約1.6mまでと浅かったため、遺物包含層に達していない可能性がある。一方、32号トレンチの遺物包含層は西へ続いていることが確認されている。これらを踏まえると30～37号トレンチの間で本発掘調査が必要であると考えられる。またこの発掘調査対象範囲内には縄文時代・古代の少なくとも2面の生活面が存在することが明らかになった。なお、この範囲は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったため、新たに小字名をとって「大石遺跡」とする。

大月バイパスの建設予定地内にはまだ未買収地が存在するため、今回の試掘調査が及んでいない範囲がある。それらについては調査可能となった時点での試掘調査が必要である。



第1図 国道20号大月バイパス建設事業（JR地区）位置図



試掘地域全景



トレーニチ掘削状況



トレーニチ精査状況



32T土層堆積状況



34T土層堆積状況



34T土坑検出状況

第2図 試掘トレーニチ配置図

2 都市計画路「古府中環状浅原橋線」街路事業 試掘 《甲府城下町遺跡》

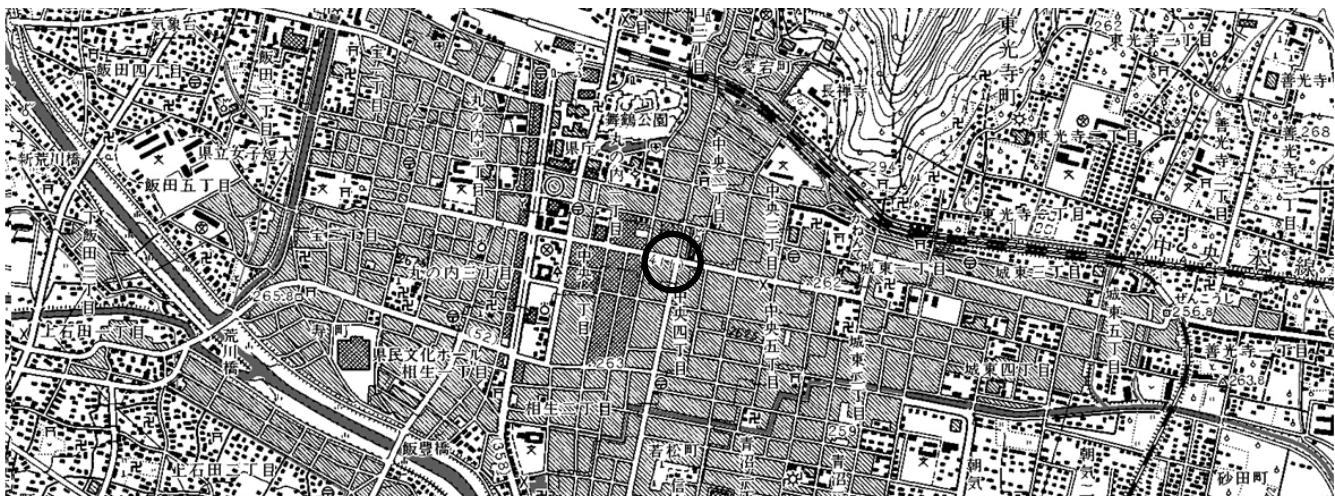
所在地	甲府市中央二丁目12-19	調査期間	平成26年6月4日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	10m ²

調査経緯及び事業内容と結果

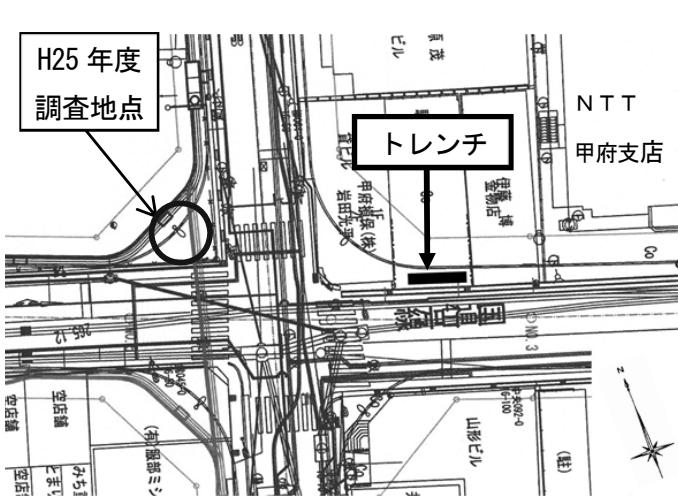
事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡に該当することから試掘調査を実施した。試掘地点は「NTT甲府支店西」交差点の北東隅である。平成25年度には同交差点北西隅の発掘調査がなされ、精鍊遺構などが検出されている。

試掘調査は重機により南北約1.3m、東西8m、深さ80cmのトレーニングを掘削した後人力により精査し、土層の観察と遺構・遺物の有無の確認を行った。地表面は約30cmのコンクリートに覆われていた。トレーニングの東側の3分の2ではコンクリートの下に層厚約20cmの茶褐色粘質土層があり、その下に江戸期の遺構面が認められた。江戸期の遺構面において、トレーニング東端から約90cmの地点で南北方向の木樋が検出された。木樋の上には径30cm以上の扁平な巨礫が蓋状に置かれていた。この木樋は甲府上水の支線と考えられる。また、遺物として染付腕と鉄釉が施釉された陶器片が出土した。トレーニング西側3分の1では、コンクリートの下は攪乱層であった。溶けたガラス片などが検出されたことから甲府空襲の痕跡と考えられる。

試掘調査の結果、甲府上水の支線配置が解明されたり他の遺構・遺物が検出される可能性が高いため、発掘調査を実施する必要がある。



第1図 都市計画路「古府中環状浅原橋線」街路事業位置図



第2図 試掘トレーニング配置図



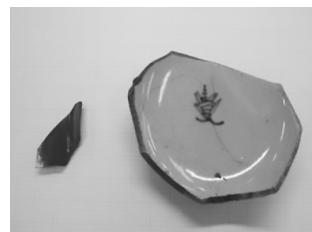
試掘調査地点



木樋検出状況



甲府空襲の痕跡



出土遺物

3 甲府駅南口周辺地域修景計画事業（中央分離帯） 試掘 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目2-9隣接地	調査期間	平成26年8月20日・9月19日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇	調査面積	29m ²

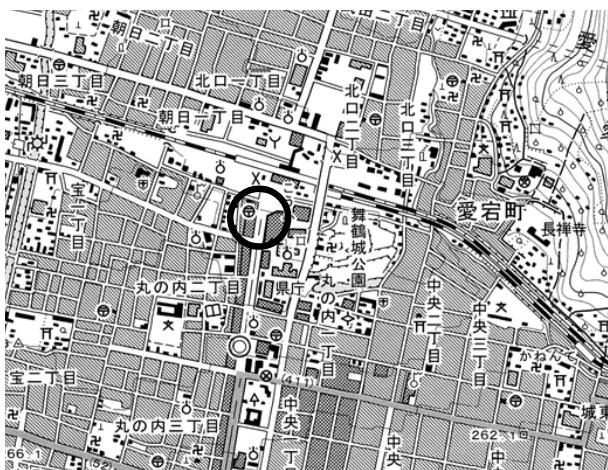
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地が甲府城下町遺跡に該当することから試掘調査を実施した。対象地域は甲府城柳御門の西側に位置しており、周辺の発掘調査では武家屋敷跡や甲府上水の支線など江戸期の遺構が検出されている。

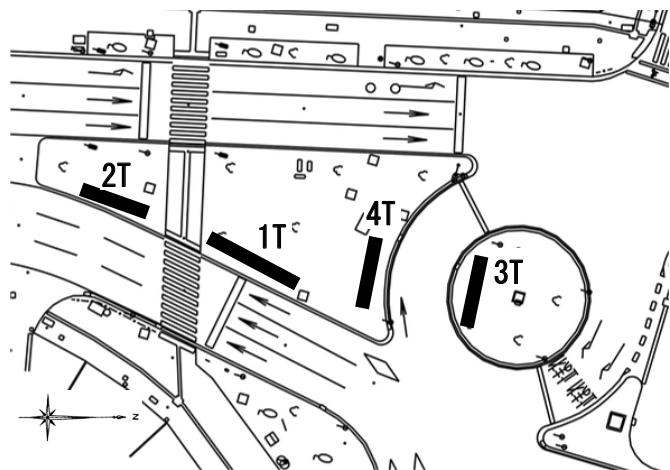
調査は地下埋設配管を避けてトレンチを4個所に設定し、重機により江戸期と判断される層位まで掘り下げた後に人力により精査して遺構・遺物の確認を行った。第1トレンチおよび第2トレンチは8月20日、第3トレンチおよび第4トレンチは9月19日に試掘調査を実施した。

第1トレンチは長さ8.5m、深度1～1.4mを掘削したが、盛土層、碎石層、コンクリート基礎などが観察できたのみで遺構・遺物は検出されなかった。第2トレンチは長さ6m、深度1.2mを掘削した結果、盛土、碎石層の下の深度1.2mで江戸期と推測できる暗黄褐色土層が確認され、その上面で約1.8m間隔で並ぶ方形の土坑3基が検出された。第3トレンチは長さ6m、深度1.7mを掘削した結果、盛り土の下に碎石層や攪乱層があり、その下の深度1.7mで暗黄褐色粘質土層が安定した土層として観察された。第4トレンチは長さ8m、深度1.7mを掘削した結果、第3トレンチとほぼ同様の堆積であったが、暗黄褐色粘質土層の上層にわずかな焼土層が確認された。第3トレンチ、第4トレンチともに遺構・遺物は検出されなかった。

調査の結果、第2トレンチ付近については甲府城柳御門周辺の状況が理解できる遺構が検出される可能性が高いため発掘調査の必要がある。その他の地点については遺構・遺物の検出はなかったので発掘調査の必要は無いが、甲府城跡に隣接する地域であることから工事施工時には立会が必要と思われる。



第1図 甲府駅南口周辺地域修景計画位置図



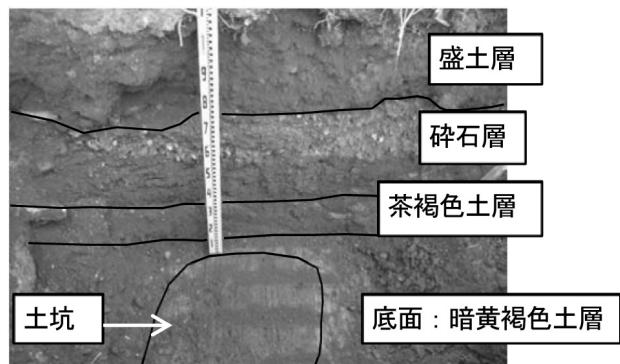
第2図 試掘トレンチ配置図



調査地域全景



2T遺構確認状況



2T土層堆積状況および遺構確認状況

4 新山梨環状道路東部区間建設事業（甲府市小曲町地内）試掘

所在地	甲府市小曲町地内	調査期間	平成26年8月25日～8月29日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇	調査面積	478.2m ²

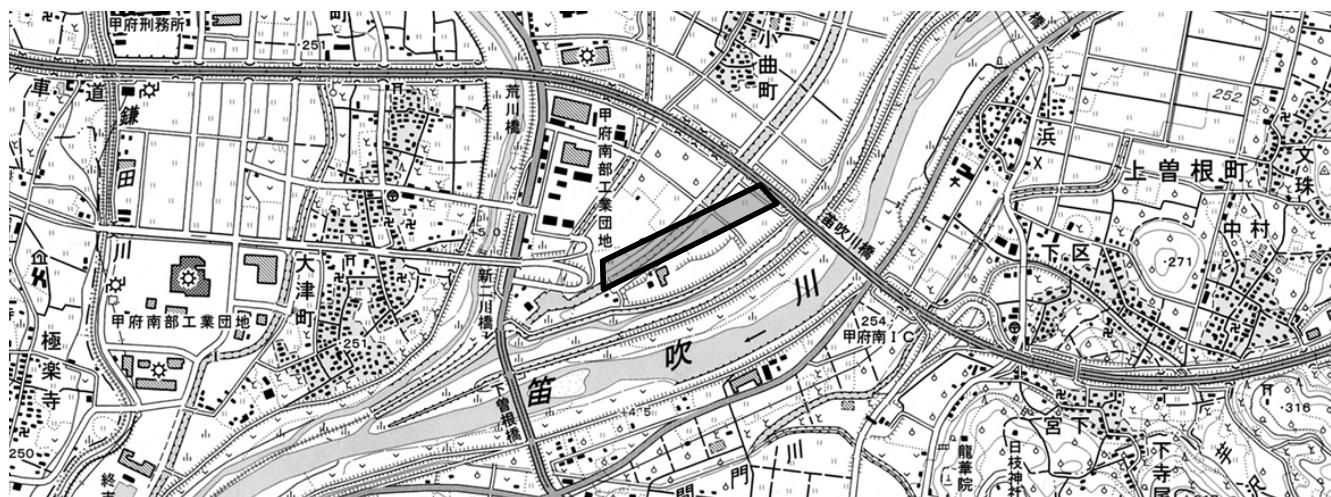
調査経緯及び事業内容と結果

事業対象地は笛吹川・濁川と荒川の合流点近くに位置し、近年の土地利用は田や畠であるが、明治21年発行の2万分の1地形図では湿田になっている。当地は既存の埋蔵文化財包蔵地に指定されてはいないが、事業地域が広域にわたるため新環状・西関東道路建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議に基づき埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査を実施することとした。

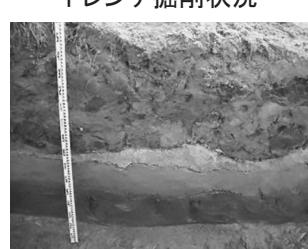
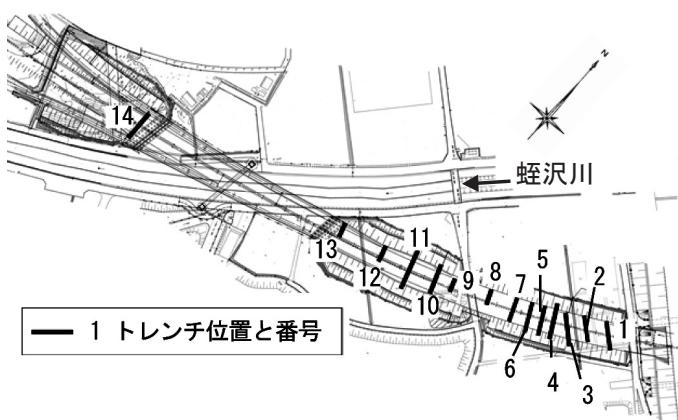
調査は、地下埋設物の水管を避けてトレンチを14個所に配置し、重機により自然堆積層と判断される層位まで掘削した後に人力により精査して土層の観察を実施した。

全てのトレンチにおいて約60cm～100cmの厚い表土および耕作土がみられた。これは泥炭などの混入が見られることから圃場整備が行われた際の客土と考えられる。客土の下位には砂層が見られるトレンチが多く、砂層の中にはゴミを含むものもあった。ここまで層位からは弥生時代後半代から平安時代までの土器片が散見できたが客土に含まれていた遺物と解釈できる。砂層の下は自然堆積とみられる暗灰色の砂質土や粘質土が堆積していたが、この層位からは遺構・遺物は検出されなかった。

以上から、今回の試掘調査の範囲においては埋蔵文化財の発掘調査は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 新山梨環状道路東部区間建設事業位置図



5 国道141号絵見堂交差点改良事業 試掘 《宮ノ前第4遺跡・宮木遺跡》

所在地	韮崎市藤井町駒井・藤井町北下條地内	調査期間	平成26年9月24日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇	調査面積	24.75m ²

調査経緯及び事業内容と結果

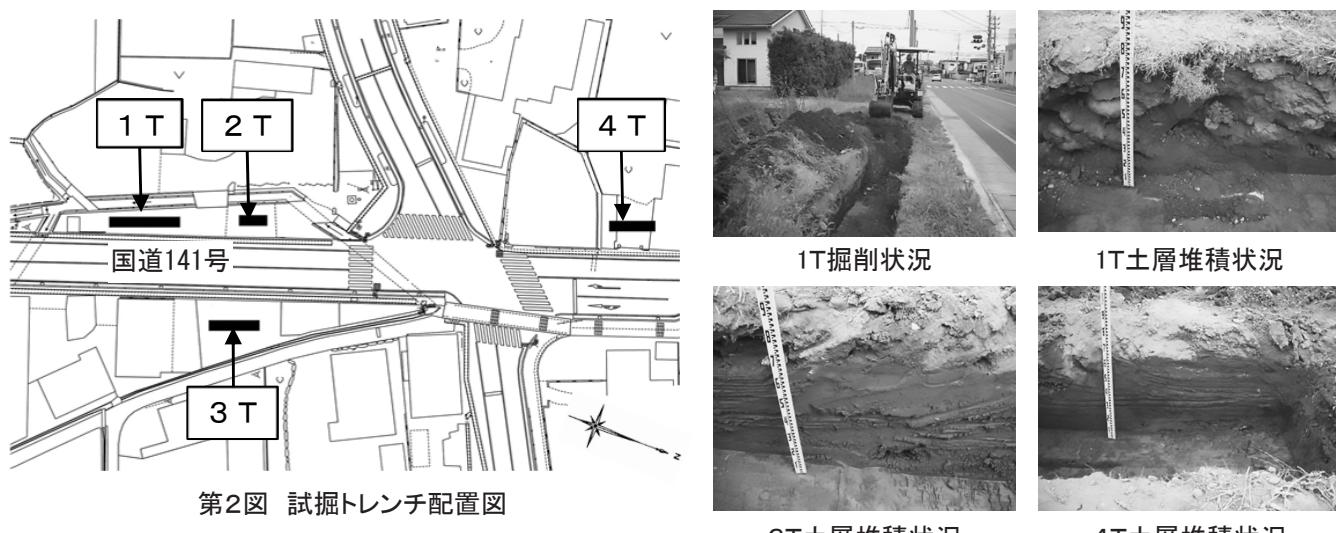
事業対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地である宮ノ前第4遺跡・宮木遺跡の範囲内に該当するため、中北建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる協議に基づき埋蔵文化財の有無確認をするために試掘調査を実施した。なお、平成25年度には、当地点の用地買収済み個所の試掘調査を実施している。

調査は4条のトレンチを重機によって掘削した後、人力により精査し、土層の観察を実施した。第1・3・4トレンチでは表土層の下に、角礫を多く含む茶褐色粘質土層や淡茶褐色粘質土層、橙褐色土層などの他に部分的に碎石層が見られた。その全ての層は他所から搬入転圧されたものである。第1・3・4トレンチからは遺構・遺物の検出は無かった。第2トレンチは長さ約2m、幅約1.5mの規模で掘削を試みたが、深度約20cmより下方はモルタルなどにより硬化しており、掘削を行うことができなかった。

当該地は、すでに土地の改変がなされており良好な土層堆積状況は観察できず、遺構・遺物も認められなかつたため、埋蔵文化財の発掘調査は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 国道141号絵見堂交差点改良事業位置図



6 県営住宅富浜団地駐車場整備事業 試掘 《南堀之内遺跡》

所在地	大月市富浜町鳥沢3263-1	調査期間	平成26年4月28日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	18m ²

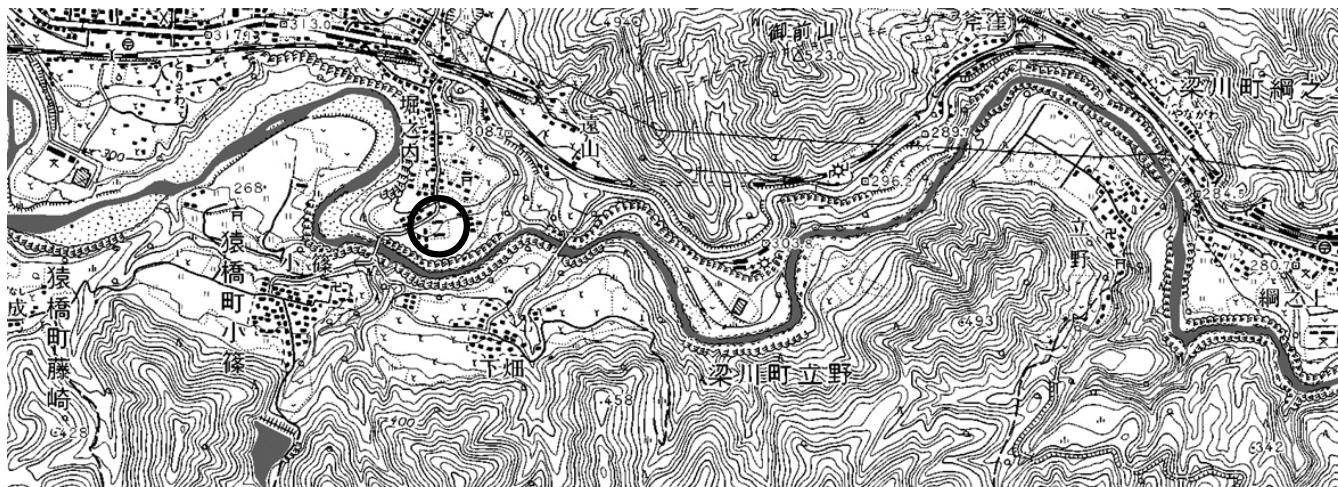
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である南堀之内遺跡に該当することから試掘調査を実施した。当該地の北では、2号棟の建設に伴う発掘調査が昭和54年に当埋蔵文化財センターによって実施され、平安時代の住居跡や土坑、集石遺構および遺物が検出されている。当該地の現状は、3分の1程度が盛り土で残りが遊具などを設置した公園を主体とする平坦地である。

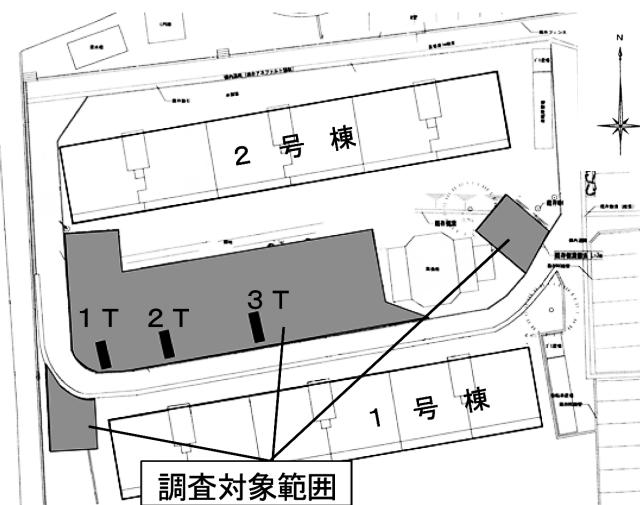
調査は、ガス管、水管、地下共同溝などの地下埋設避けて、平坦部に重機により2m×3mのトレーナーを3本掘削して土層の観察や遺構、遺物の有無の確認を行った。

第1トレーナーでは、15～20cmの表土層の下に、一部分ではあるがややしまりの無い黄褐色土層(第1層)があり、その下に粘性・しまりが強い茶褐色土層(第2層・5～10cm)が検出された。さらにその下方からは粘性・しまりに富み炭化粒子と焼土粒子を含む茶褐色土層が検出されたが遺構・遺物の検出は無かった。第2トレーナーと第3トレーナーでは、10～15cmの表土層の下は造成による搅乱やコンクリート塊などが検出されたのみで良好な土層は観察できず、遺物も認められなかった。

試掘調査の結果、一部で良好な土層が見られたが遺構・遺物はなく、ほとんどの地域が造成により搅乱されてしまっている。以上から、発掘調査は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



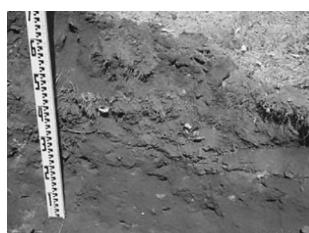
第1図 県営住宅富浜団地駐車場整備事業位置図



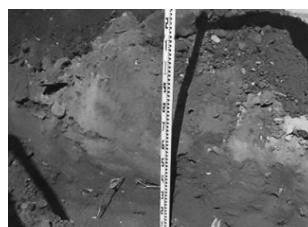
第2図 試掘トレーナー配置図



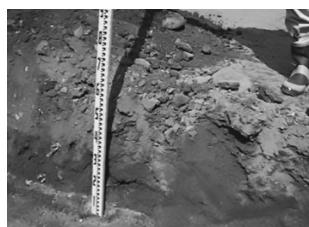
試掘調査地点



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

7 県営住宅一宮団地駐車場整備事業 試掘 《北中原遺跡》

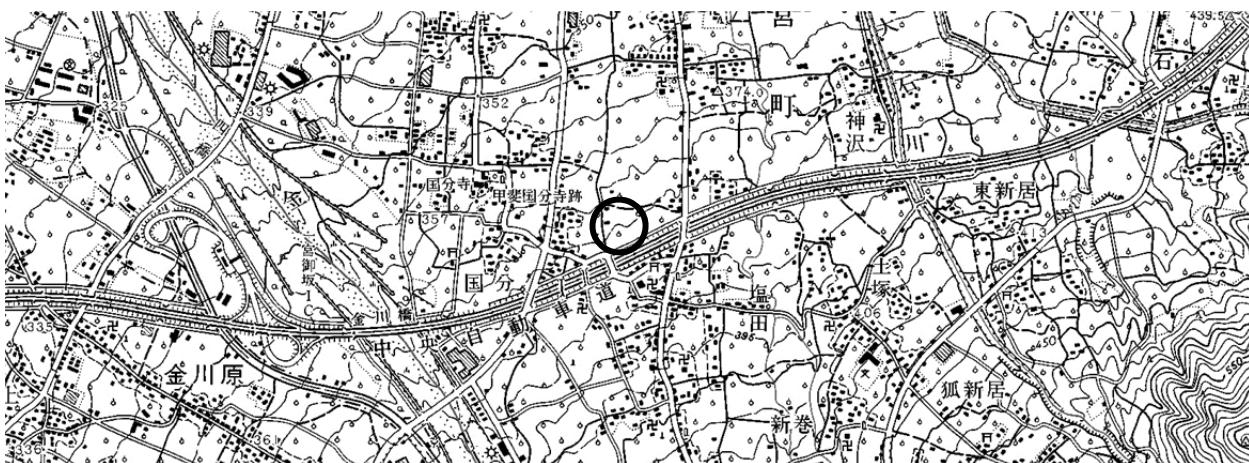
所在地	笛吹市一宮町塩田590-1	調査期間	平成26年6月11日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	10m ²

調査経緯及び事業内容と結果

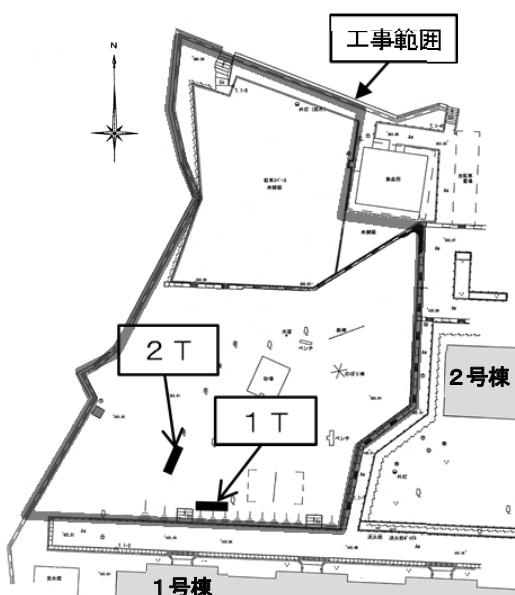
事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である北中原遺跡に該当することから試掘調査を実施した。調査地点は金川扇状地上に位置し、地表面は北北西方向に傾斜している。当該地の北では一宮団地3号棟・4号棟建設に伴う発掘調査が平成5～6年に実施され、縄文・平安・中世の遺構・遺物が検出されている。

試掘調査は工事計画で掘削深度の大きい南部に重機で2本のトレンチを掘削した後、人力により精査し遺構・遺物の確認と土層の観察を行った。第1トレンチは長さ3m、幅1.7m、深さ1.2mを掘削した。表土層の下は部分的に碎石層が見られたが、主に明茶褐色土を基質とする亜円礫の巨礫層や薄黄褐色砂礫土層であった。第2トレンチは長さ3m、幅1.5m、深さ1.2mを掘削した。表土および埋設物敷設に伴う攪乱の下は第1トレンチ同様の砂礫層であった。

両トレンチとも遺物包含層に相当する土層はなく、遺構・遺物は検出されなかった。従って、埋蔵文化財の保護措置は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 県営住宅一宮団地駐車場整備事業位置図



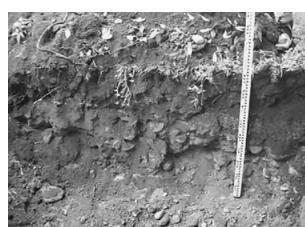
第2図 試掘トレンチ配置図



試掘調査地点



1T掘削状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況

8 県営住宅八田団地駐車場整備事業 試掘 《坂の上姥塚遺跡》

所在地	南アルプス市徳永1690	調査期間	平成26年10月1日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	10.5m ²

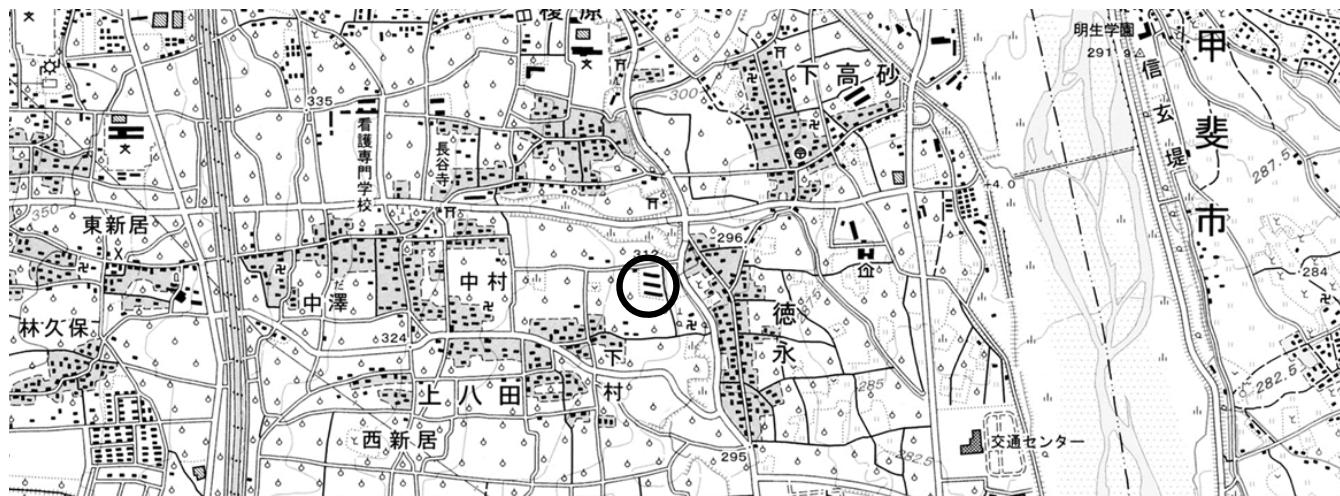
調査経緯及び事業内容と結果

事業対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地である坂の上姥塚遺跡に該当することから、建築住宅課、營繕課、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議に基づき試掘調査を実施した。

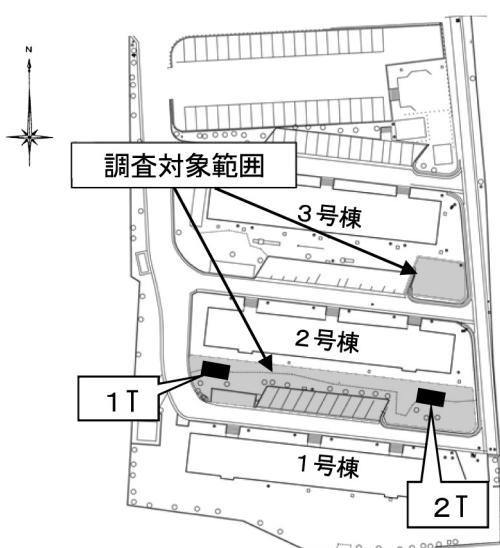
調査は掘削を伴う部分に2条のトレンチを設定し重機により掘削の後、人力による精査を行い土層の観察を実施した。

第1・第2トレンチともに長さ約3.5m、幅約1.5m、深度約1.2mを掘削した。両トレンチとも層厚約30cmの表土層とその下位の暗黄褐色土層が観察された。この暗黄褐色土は盛り土であり、碎石が混入し、非常に堅く転圧されている。両トレンチからは遺構・遺物の検出は無かった。

試掘調査の結果、建物造成時に堅く転圧された盛り土層しか観察されず良好な土層堆積は確認できなかった。以上から、埋蔵文化財の保護措置は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 県営住宅八田団地駐車場整備事業位置図



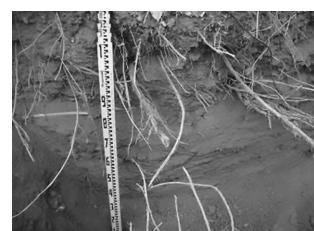
1T掘削前の状況



1T土層堆積状況



2T掘削状況



2T土層堆積状況

第2図 試掘トレンチ配置図

9 萩崎警察署穴山駐在所移転新築事業 試掘 《能見城跡》

所在地	萩崎市穴山町4316-2	調査期間	平成26年6月9日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	23m ²

調査経緯及び事業内容と結果

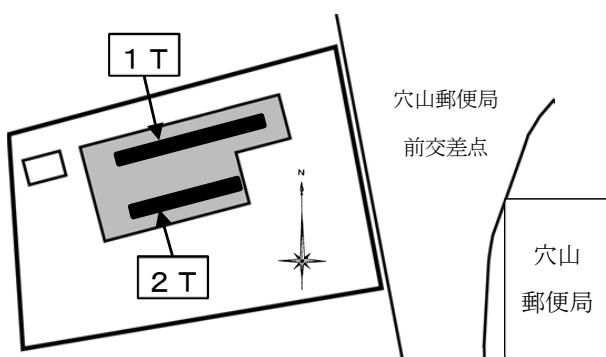
事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である能見城跡に該当するとともに宿尻遺跡の隣接地でもあることから試掘調査を実施した。調査地点周辺はほぼ平坦であるがわずかに南へ傾斜している。過去に住宅を建設するために緩傾斜地を平坦化したようである。

試掘調査は、重機により建物の建設予定位置に東西方向の2本のトレーナーを掘削し、人力による精査を行い土層の観察を行った。第1トレーナーは幅約1.5m、長さ11m、深さ1.2mを掘削した。表土下は所々で深くまで攪乱が見られた。良好な土層が観察された地点では、上位より茶褐色土層、黄褐色土層が確認でき、トレーナー西端では地表下1m以深に再堆積と思われる御岳第一軽石層(Pm-I)が認められた。第2トレーナーは幅約1.5m、長さ7.4m、深さ1.2mを掘削し、第1トレーナー同様の茶褐色土層、黄褐色土層を確認した。また2本のトレーナーの壁面の観察から、土層は地表面とは異なり東南東方向に緩やかに傾斜していることが確認できた。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。従って、埋蔵文化財の保護措置は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



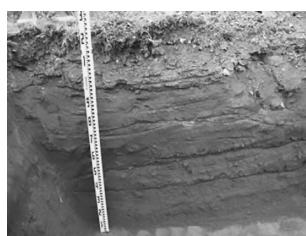
第1図 萩崎警察署穴山駐在所移転新築事業位置図



第2図 試掘トレーナー配置図



調査地点



1T土層堆積状況



1T完掘状況

10 県立かえで支援学校分教室体育館建設事業 試掘 《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川1400	調査期間	平成26年9月11日
担当者	吉岡弘樹・小田切崇	調査面積	47m ²

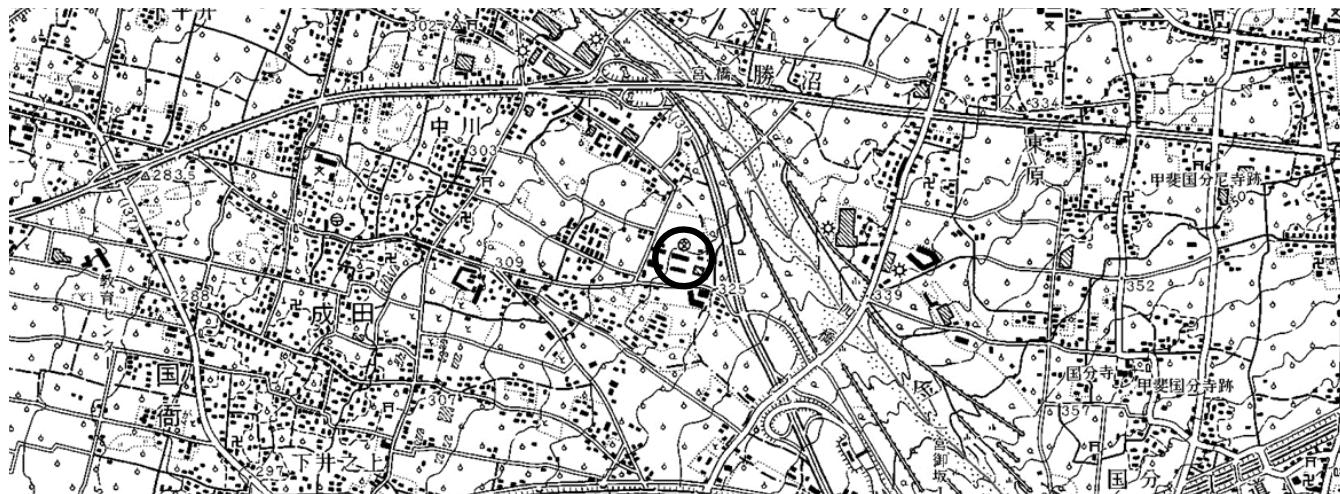
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地の県立かえで支援学校分教室の敷地の一部が狐原遺跡に該当することや近隣に古墳が点在することなどから、営繕課、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議に基づき試掘調査を実施した。

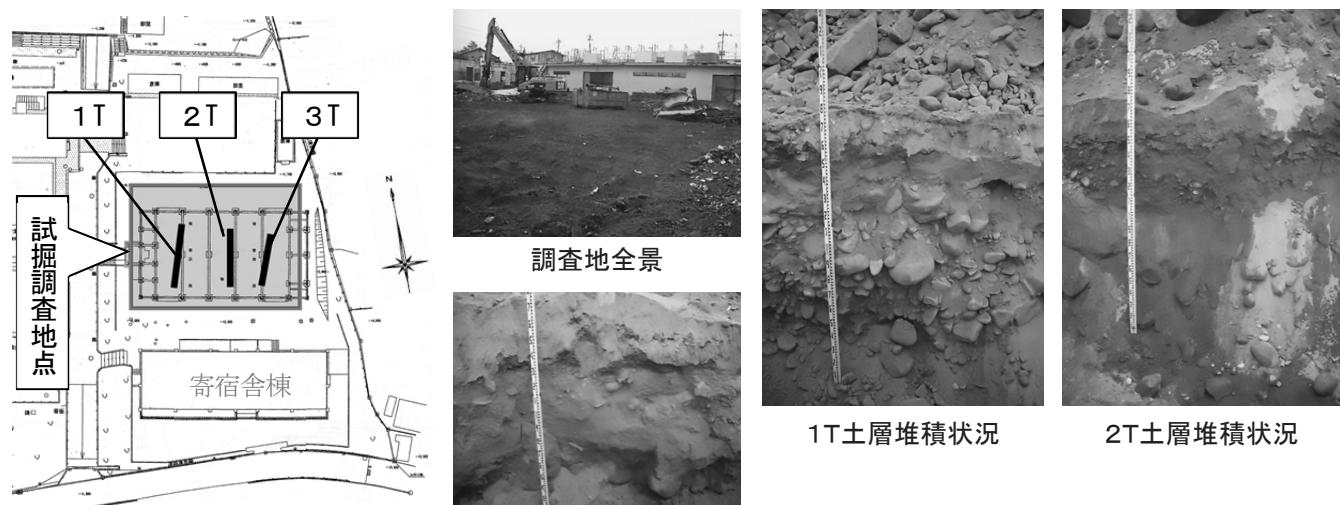
対象地は甲府盆地東部の金川左岸の扇状地に位置し、標高は約320mである。当地は、旧県立園芸高等学校の跡地であり、体育館は旧園芸高校の体育館解体跡地に新設される。

調査は、地下埋設物を避けてトレンチを3個所設定し、重機で掘削した後、人力で精査して土層の観察を行った。第1トレンチでは上位から盛土層(60cm)、砂層(30cm)、暗茶褐色粘質土層(10cm)、黄褐色土層(20cm)、砂礫層(100cm以上)が観察された。第2トレンチでは、上位から盛土層(30cm)、砂礫層(40cm)、砂層(50cm)、砂礫層(100cm以上)が観察された。第3トレンチでは、上位から盛土層(50cm)、砂層(20cm)、砂礫層(130cm以上)が観察された。最下層の砂礫層は5~30cmの亜円礫を主体とし、トレンチ底まで厚く堆積していた。いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出されなかった。

以上から、埋蔵文化財の発掘調査は必要なく、工事に着手しても差し支えないと判断される。



第1図 県立かえで支援学校分教室体育館建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図

3T土層堆積状況

1T土層堆積状況

2T土層堆積状況

11 曽根丘陵公園整備関連 試掘 《鍋弦塚東遺跡》

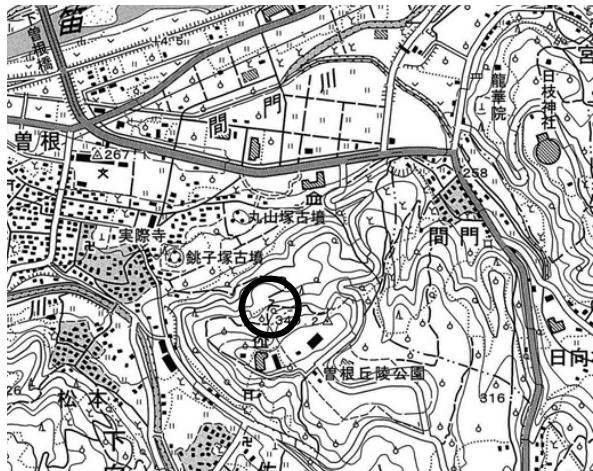
所在地	甲府市下向山町地内	調査期間	平成26年5月19日～5月23日
担当者	網倉邦生・篠原真史・浅川一郎・柴田亮平・新津茂	調査面積	44m ²

調査経緯及び事業内容と結果

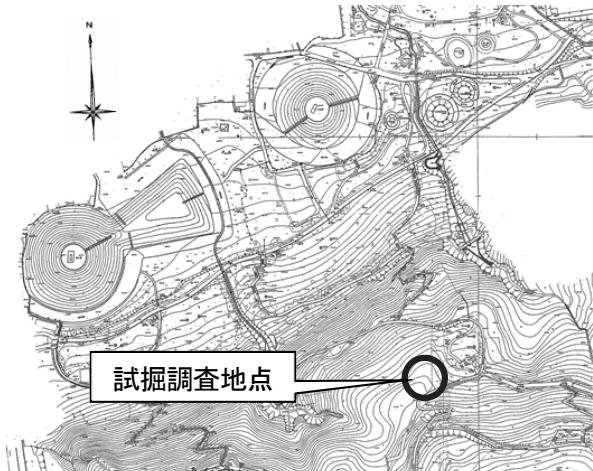
曾根丘陵公園内にある鍋弦塚の東には落ち込み（凹地）が複数確認されており、地下式坑の可能性が指摘されていた。今回、その性格や内容を把握するため、試掘調査を実施した。調査対象は、曾根丘陵公園内の園路に最も近い落ち込みであり、その平面形は4.93m×3.16mの楕円である。

調査では、人力により掘削しつつ落ち込みの内部の土層を観察したが、表土層の下において地下式坑の天井部に比定可能な地山層が検出されず、しまりのない暗褐色土層中にビニールなどが混じり込んでいた。そこで、落ち込みの底面を確認するため、重機で西側にトレーナーを掘削したところ、地表下0.6mの位置で直径0.2mの丸太が3本南北方向に長軸を向けた状態で検出された。さらに継続して重機による掘削を行った結果、丸太の下にブルーシートが敷かれ、その下に自然堆積の地山層が確認された。

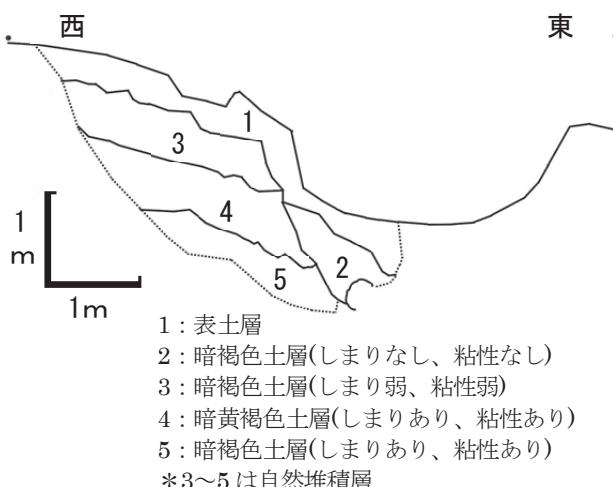
この結果、調査した落ち込みは地下式坑ではなく、公園整備時に、地盤を安定させるために行った土留め工部分が陥没したものであり、新しい地形と考えられる。なお、本調査地点の周囲には複数の落ち込みが確認されており、これらは遺構の可能性もあるため、工事施工時には立会調査をする。



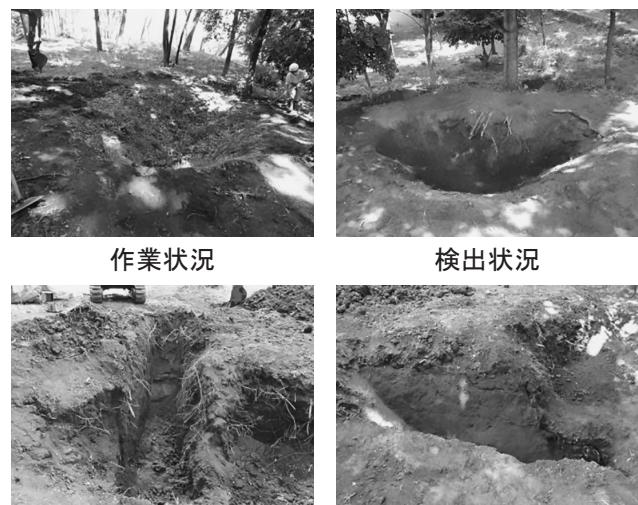
第1図 曽根丘陵公園整備関連位置図



第2図 試掘調査位置図



第3図 トレーナー土層断面図



トレンチ掘削状況

半裁状況

12 甲府市地方家庭裁判所都留支部本庁舎解体事業 立会《谷村城跡》

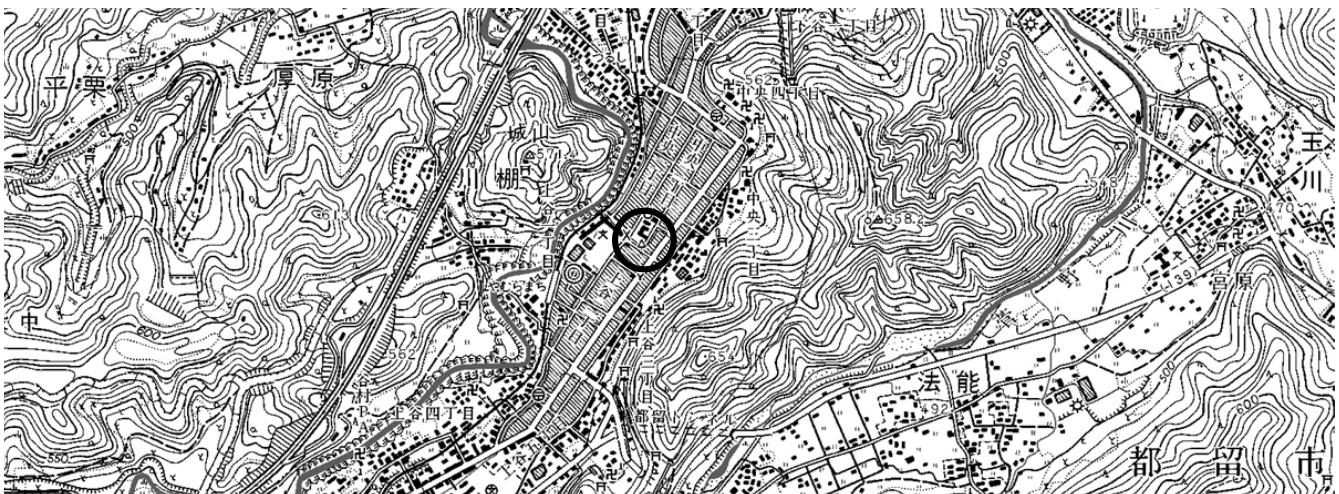
所在地	都留市中央二丁目1-1	調査期間	平成26年1月23日、27日、28日
担当者	村石眞澄	調査面積	10m ²

調査経緯及び事業内容と結果

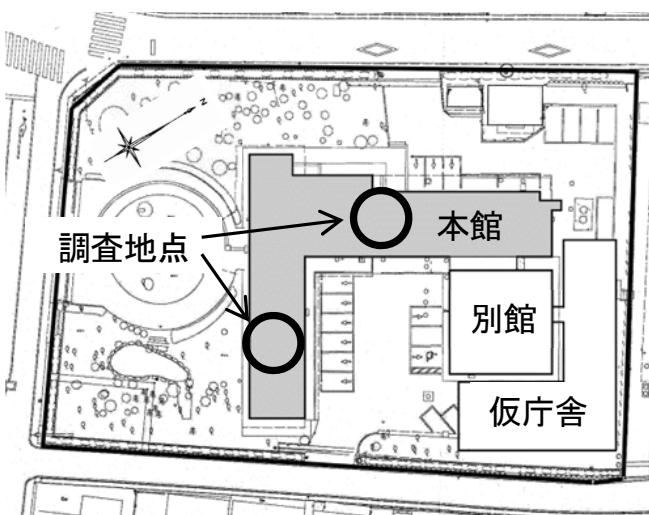
事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である谷村城跡（谷村陣屋跡）内であるため、立会調査を実施した。工事は本庁舎建物基礎の撤去である。

最初に建物の基礎間に包含層が残存しているかどうかの確認を行ったが、基礎間はすべて攪乱土であった。次に建物建築時の基礎工事による攪乱の範囲の確認を行った。建物基礎は現地表下65cmまでは地中梁でその下に厚さ45cmのベースがあり、ベースの下はラップルコンクリート塊で、設計上では猿橋溶岩流まで達しているとのことである。基礎を設置するための余堀は幅約30cmと狭く、人力での掘削によるものと思われる。基礎を解体撤去するには既掘範囲内の掘削は困難であり新たな地山掘削は避けがたい。しかし、基礎を残したまま発掘調査をするのは基礎の倒壊の恐れや鉄筋の突出など危険性も大きい。そこで、発掘調査前にベースと地中梁を慎重に撤去し、包含層への影響が大きいと考えられるラップルコンクリートは発掘調査後に撤去することとした。

ベースと地中梁の解体工事では遺物の発見はなく、また掘削土中にも遺物は観察されず、今回の解体工事は埋蔵文化財への影響はない判断した。ただし、この敷地は谷村城跡（谷村陣屋跡）に当たるので、本庁舎建設に先立って発掘調査が必要である。



第1図 甲府地方家庭裁判所都留支部仮庁舎建設事業位置図



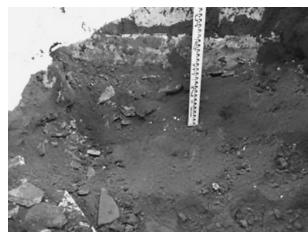
第2図 立会調査位置図



基礎間の掘削状況



地中梁間の掘削状況



土層堆積状況



地中梁の余堀り

13 都留高等技術専門校校舎解体事業 立会 《沖大原遺跡》

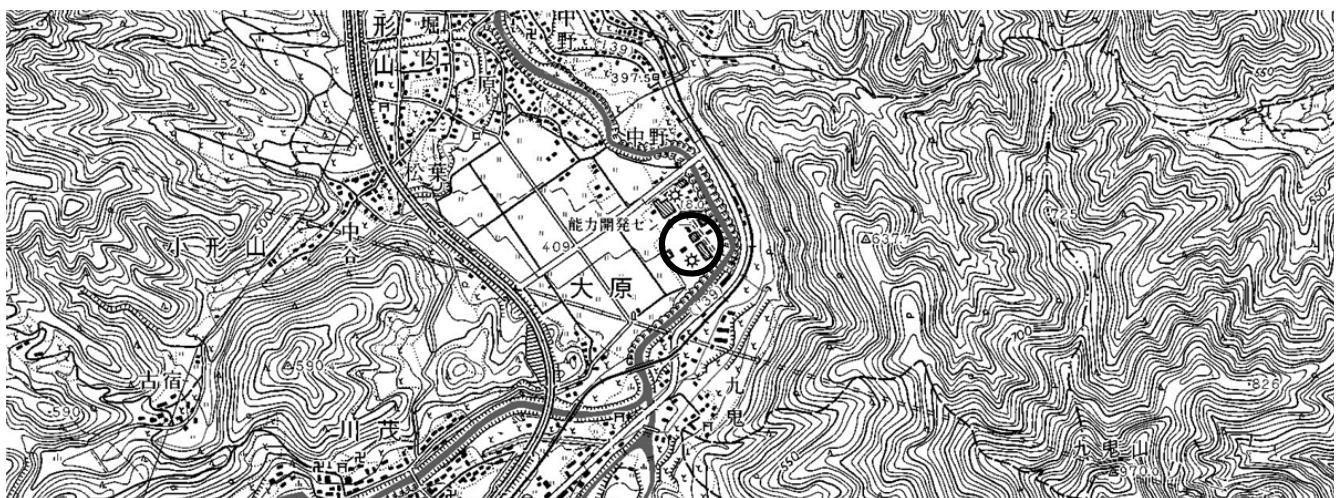
所在地	都留市小形山1	調査期間	平成26年1月7日
担当者	村石眞澄	調査面積	13m ²

調査経緯及び事業内容と結果

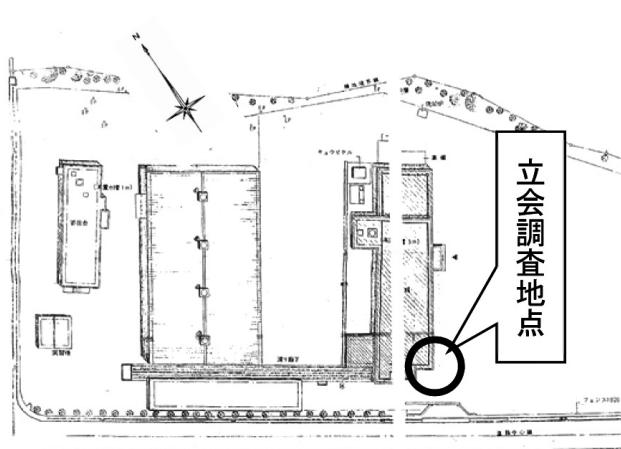
当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である沖大原遺跡に当たるため、基礎解体工事に伴い立会調査を実施した。

表土および攪乱層の下位に赤色スコリアを含む堅い明黄褐色土の地山が確認できた。この地山層は調査地点の南西約5Kmに位置する三ノ側遺跡（都留市上谷）で観察された猿橋溶岩直上の地層に類似している。三ノ側遺跡ではこの明黄褐色土層の上位に平安時代の遺物包含層に相当する暗褐色～黒褐色土層や江戸時代以降の水田耕作土層が堆積していたが、調査地点ではこれらの地層は確認できなかった。調査地点周辺はすでに大規模な造成工事が行われた可能性が高く、三ノ側遺跡で認められた暗褐色～黒褐色土層や水田耕作土層は造成工事に伴う掘削によって失われてしまったものと考えられる。

今回の立会調査においては遺構・遺物は検出されなかった。したがって、校舎等の解体工事については、埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。なお、当地はリニア実験センターの駐車場として利用される予定であるが、将来的に地下の掘削を伴う開発を行う場合には事前に埋蔵文化財の調査が必要である。



第1図 都留高等技術専門校校舎解体事業位置図



第2図 立会調査位置図



解体前状況



解体時状況



基礎解体状況

14 県立かえで支援学校分教室格技場他解体事業 立会 《狐原遺跡》

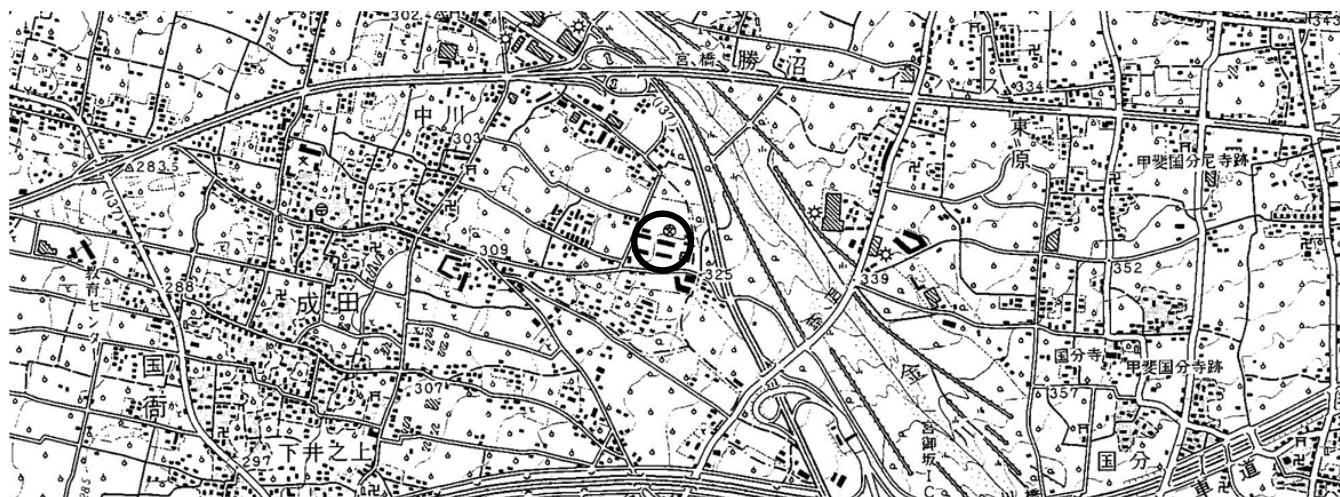
所在地	笛吹市石和町中川1400	調査期間	平成26年2月6日
担当者	網倉邦生	調査面積	54m ²

調査経緯及び事業内容と結果

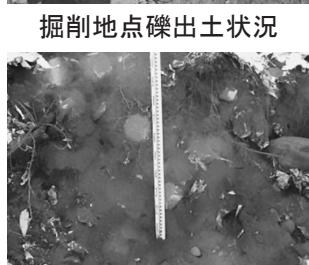
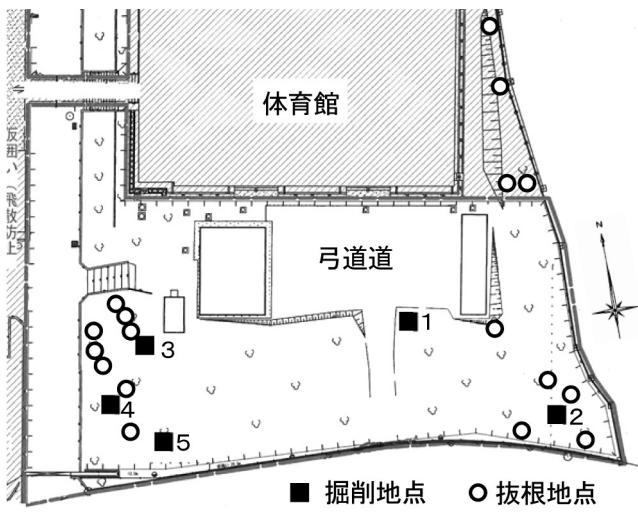
事業地の北に隣接して狐原遺跡があり、当該地点においても遺跡が検出される可能性があることから立会調査を実施した。かえで支援学校分教室は旧県立園芸高等学校の跡地にあたり、本事業は旧園芸高校の施設である弓道場・格技場の基礎解体と弓道場周辺の樹木の抜根である。基礎解体工事は既掘範囲内にとどまるため立会調査は不要とし、埋蔵文化財に影響を与える可能性がある樹木の抜根のみ立会調査を実施した。

高木の抜根においては掘削時に遺構確認と土層観察を行った（地点1～5）。低木の抜根に関しては、掘削深度が30cm程度であるため、地点のプロットと目視による埋蔵文化財の有無の確認にとどめた。地点1では、地表下80cm以深の粗砂混じり細砂層から平安時代の土師器片が1点出土した。この土師器片は断面が摩耗していることから流れ込みと考えられる。地点3・4・5では地表下60～70cm以深に暗褐色土層・礫混じり細砂層が堆積している。さらに、地点5においては、地表下120cm以深に粒径の揃った礫を含む粗砂層が確認された。低木は17本を抜根したが、いずれも表土および最上位の砂礫層の範囲で掘削は終了した。

今回の立会調査では、地点1の流れ込みによる土師器片以外に遺構・遺物は確認できなかった。



第1図 県立かえで支援学校分教室格技場他解体事業位置図



土層堆積状況

土層堆積状況

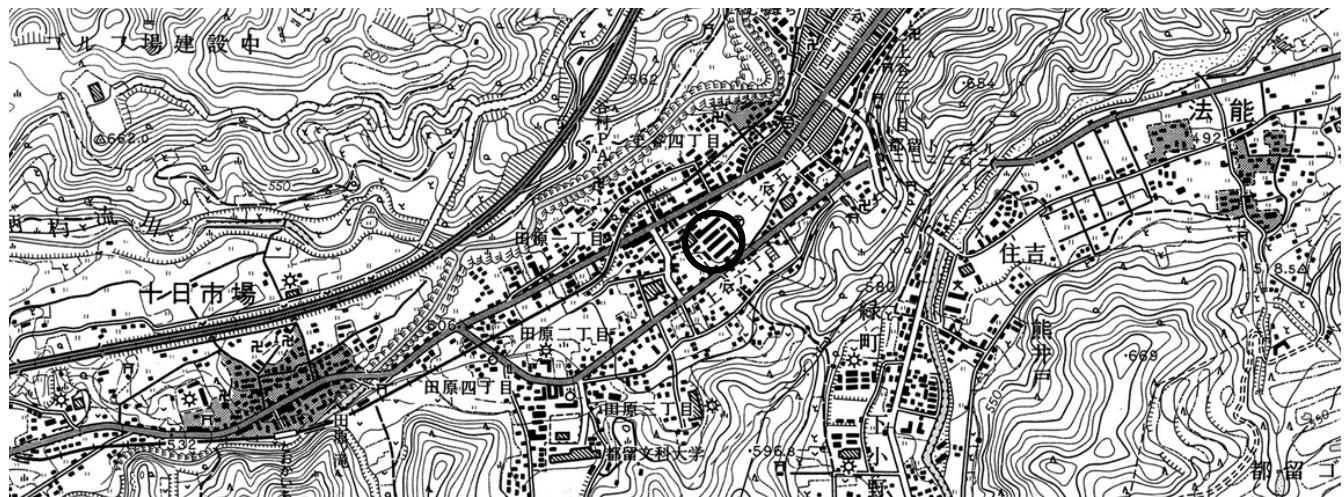
15 県立都留興譲館高校第一期建設電気設備事業 立会 《三ノ側遺跡》

所在地	都留市上谷5丁目7-1	調査期間	平成26年6月5日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	10m ²

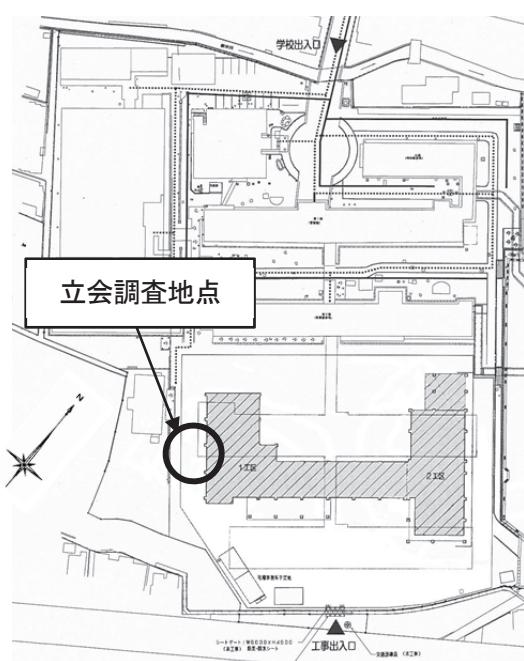
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡にあるため、立会調査を実施した。

工事はハンドホール用縦坑と電気配管用管路溝の掘削である。ハンドホール坑は2m四方を深さ最大1.4mまで掘削した。ほとんどが既掘削による攪乱層であったが、縦坑の南東面の一部は新規に掘削され良好な土層堆積が観察できた。そこでは、上位より、約20cmのアスファルトおよび碎石層、暗茶褐色土層、黄褐色土層、暗黄褐色土層が観察できたが、遺構や遺物の検出はなかった。また当初、予想された溶岩には達しなかった。管路溝は幅1m、長さ6m、深さ60cmを掘削した。アスファルトおよび碎石の下は、既掘削後の砂質または砂礫質の埋め戻し土であり新規の掘削はなかった。



第1図 県立都留興譲館高校第一期建設電気設備事業位置図



第2図 立会調査位置図



縦坑土層堆積状況



縦坑埋め戻し状況



管路溝掘削状況



管路溝土層堆積状況

16 駒沢川改修事業 立会 《熊野南遺跡・柵田遺跡》

所在地	笛吹市春日居町鎮目526-3、526-4 外	調査期間	平成26年4月10日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	12m ²

調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である熊野南遺跡および柵田遺跡の範囲に当たるため、立会調査を行った。現状で河川の両岸はコンクリートと石積みの混在した擁壁になっている。工事は既存の擁壁を撤去し、新規に全域をコンクリート壁にするものである。その際、川幅を拡張するために左岸を50cm程度掘削する。

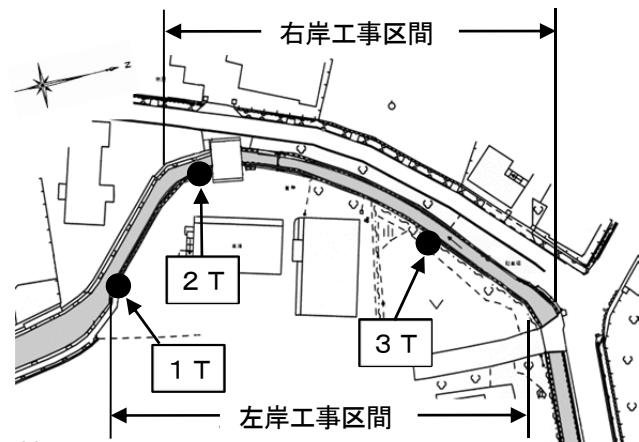
調査は隣接する住居を避け、工事区間の両端と中心付近の3ヵ所で行った。幅約1.5mの範囲を重機によって河床まで約2m掘削したのち、断面を精査し、遺構・遺物の有無や土層堆積状況の確認を行った。

第1トレーンチ（南端：下流）および第2トレーンチ（中間）では約20cmの表土の下に3層が確認できた。第1層は茶褐色砂質土層でありやや絞まりにかける。第2層は暗茶褐色砂質土層である。第3層は茶褐色粘質土を基質とする5～10cmの亜円礫層であり、この礫は河床礫と同じ構成である。第2層まで部分的に攪乱が認められた。いずれの層からも遺構・遺物は検出されなかった。第3トレーンチは約20cmの表土の下は石積み時の裏込めの礫と生け垣の樹木根により全面が攪乱されており、良好な土層は確認できず、遺物も検出されなかった。

以上から工事区間には遺跡はないと考えられたため、現地で工事を進めても差し支えない旨を伝えた。



第1図 駒沢川改修事業位置図



第2図 立会調査位置図



トレーンチ掘削状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

17 火打石急傾斜地崩壊対策事業 立会 《火打石遺跡》

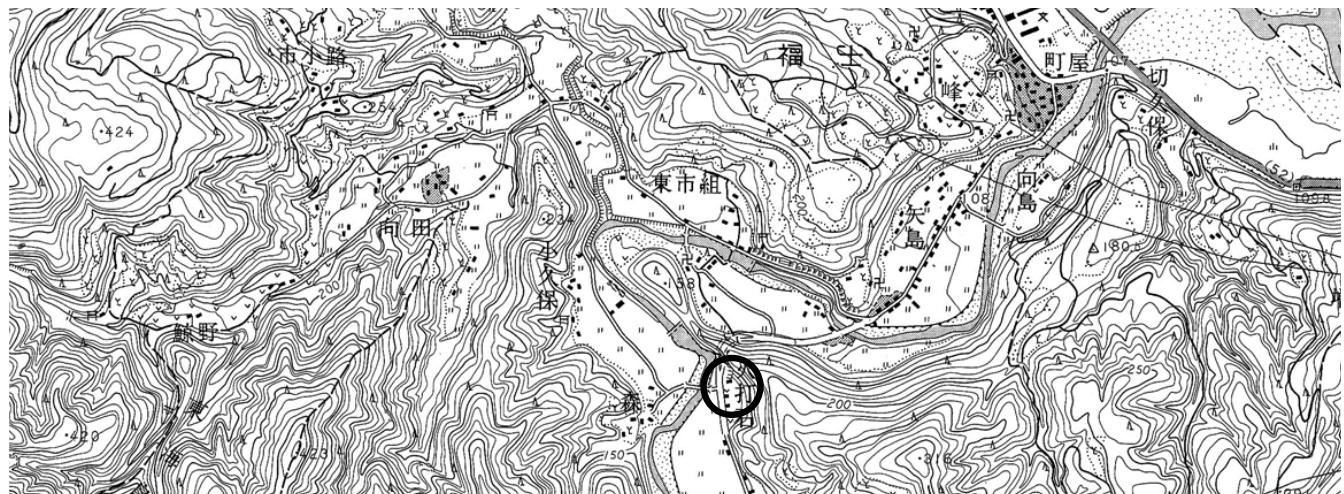
所在地	南巨摩郡南部町福士23400	調査期間	平成26年6月2日・12月24日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	40m ²

調査経緯及び事業内容と結果

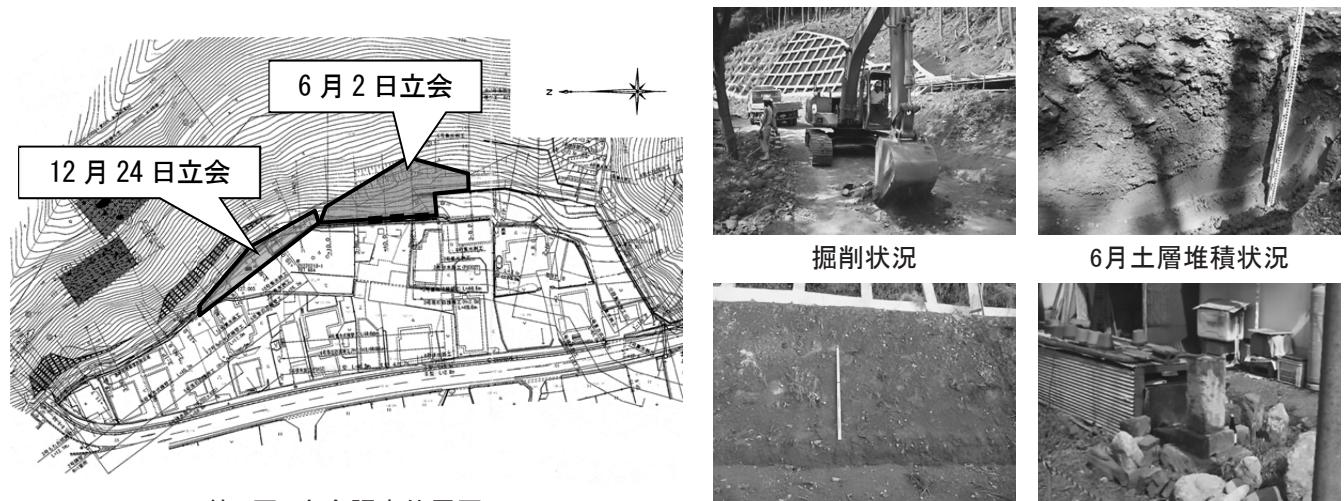
事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である火打石遺跡にある。工事の概況は山地斜面基部を掘削して擁壁を建設するものであるが、掘削地の一部に平坦地があることから、立会調査を実施した。

6月2日の調査では、事業予定地内の平坦地において3本のトレンチを掘削し埋蔵文化財の有無確認を行なった。トレンチはいずれも幅約1m、長さ約2mで、掘削深度は第1トレンチで70cm、第2トレンチで100cm、第3トレンチで130cmである。いずれのトレンチでも工事用整地土および表土の下は数cm～10cm程度の角礫が多く含む褐色土層が認められた。この褐色土層は斜面堆積物であり当地点における地山層である。また、周囲の観察からは当地が過去において段状に改変されたことがうかがえた。12月24日の調査対象地は6月2日の立会調査地の北側であり6月と同様の地形環境であることから、工事で掘削された斜面の観察を行った。その結果、薄い表土層の下に角礫を含む褐色の地山層を確認した。調査の結果、両日とも、遺構・遺物は検出されなかった。

しかし、工事範囲に近接して江戸期(元禄)の銘が読み取れる屋敷墓があり、工事範囲にも埋没している可能性もあることから、工事責任者に十分注意するよう喚起を促した。



第1図 火打石急傾斜地崩壊対策事業位置図



第2図 立会調査位置図

12月土層堆積状況

近接する屋敷墓

18 舟久保急傾斜地崩壊対策事業 立会 《馬場道上遺跡》

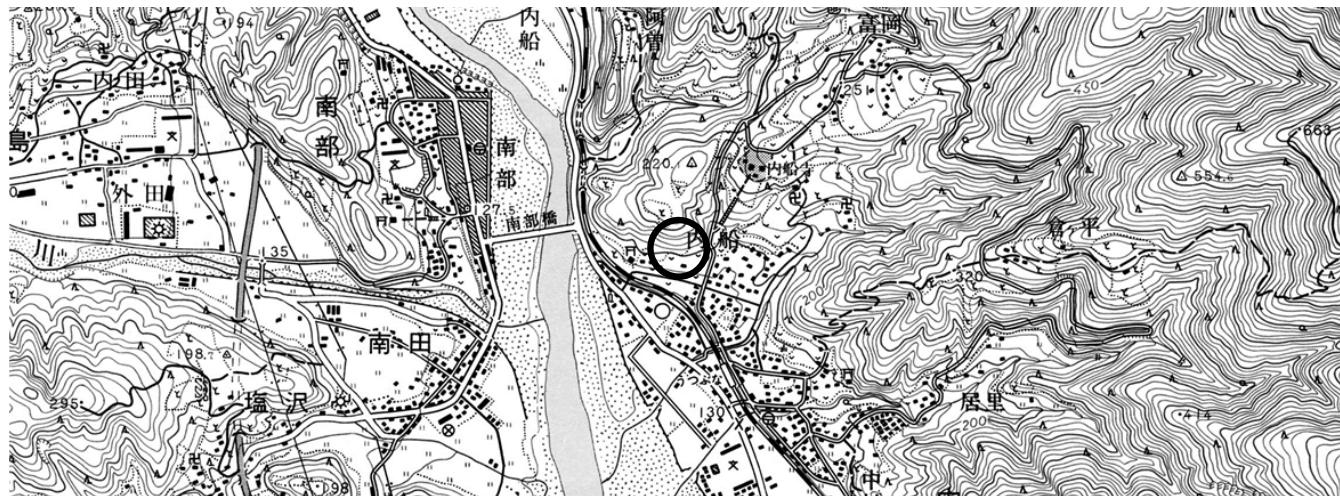
所在地	南巨摩郡南部町内船地内	調査期間	平成26年6月10日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	10m ²

調査経緯及び事業内容と結果

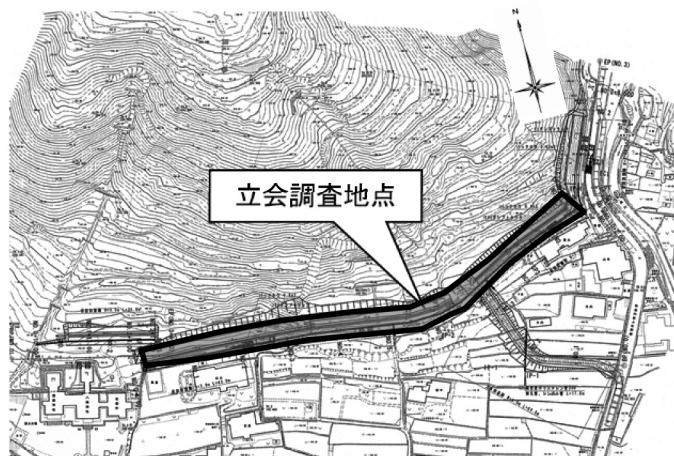
事業予定地の近隣に周知の埋蔵文化財包蔵地である馬場道上遺跡があるため、立会調査を実施した。工事は山地斜面と河岸段丘をむすぶ緩傾斜地を掘削して擁壁と落石防止柵を建設するものである。背後の山地は斜面形態から小規模な地滑りまたは表層の崩壊が頻発しているようである。

立会調査では2本のトレーナーを掘削し、断面の観察と遺構・遺物の有無確認を行った。第1トレーナーでは110cmの盛り土および表土の下に地山層である明茶褐色土が見られ、茶褐色土、淡黄褐色土と続く。第2トレーナーでは70cmの表土、盛り土、耕作土の下に暗黄褐色土層があり、さらに第1トレーナーと対応する小礫を多く含む茶褐色土、淡黄褐色土による地山層が観察できた。地山層は数cmの角礫を含んでいて斜面堆積物であると考えられる。いずれのトレーナーからも遺構・遺物の検出はなかった。

以上から、今回の立会した工事区間において埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。



第1図 舟久保急傾斜地崩壊対策事業位置図



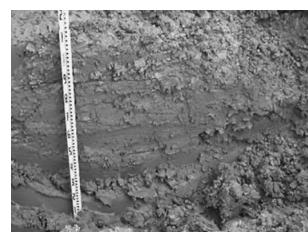
第2図 立会調査位置図



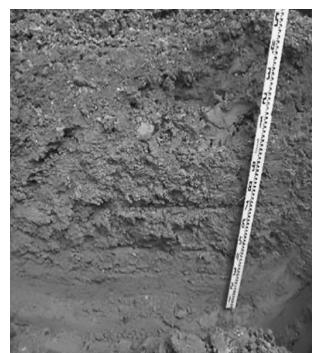
立会調査地点



トレーナー掘削状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況

19 押出沢急傾斜地崩壊対策事業 立会 《押出沢遺跡》

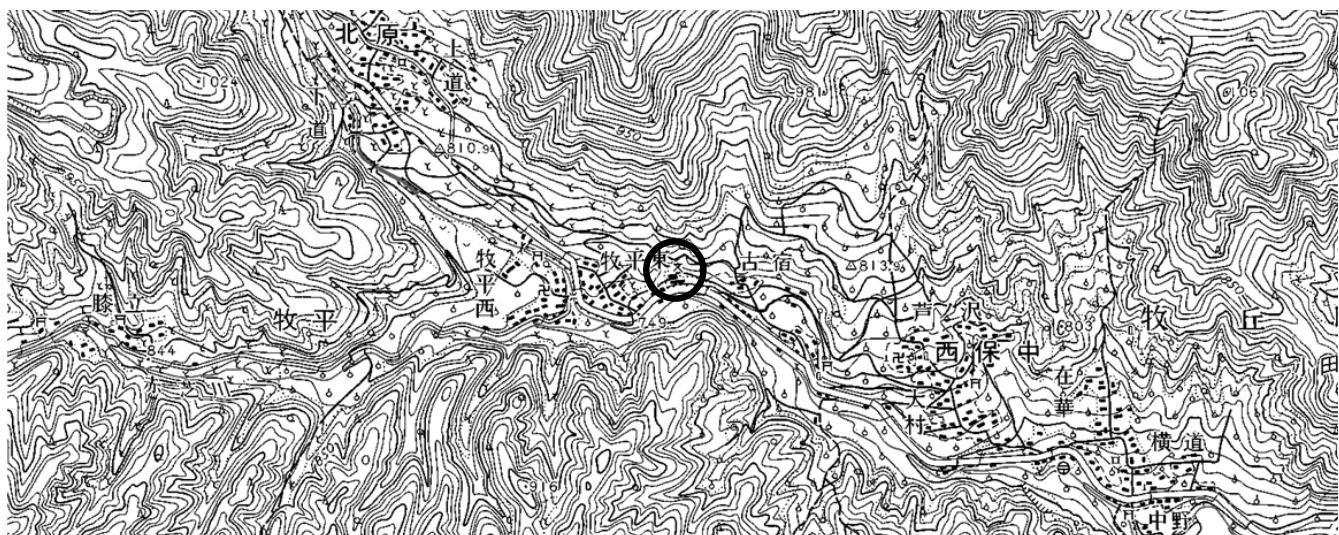
所在地	山梨市牧丘町牧平16	調査期間	平成26年6月12日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	12702m ²

調査経緯及び事業内容と結果

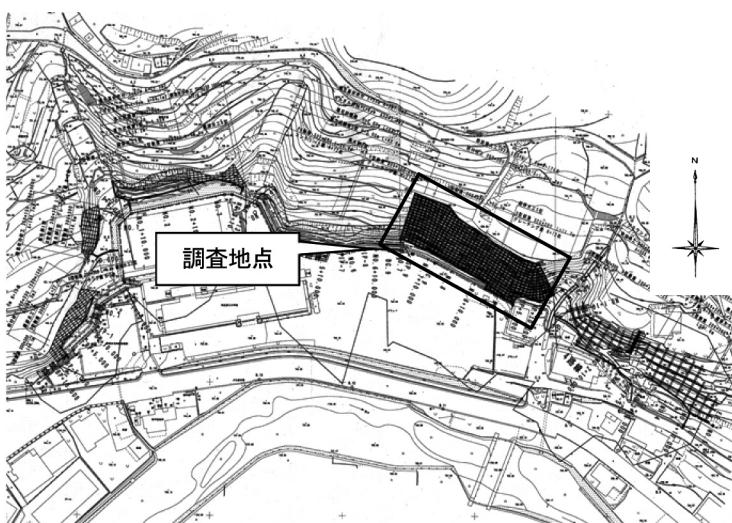
事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である押出沢遺跡の隣接地であることから工事に先立ち現地踏査による調査をおこなった。当地は山間地に位置し、東流する押出沢川左岸の山地斜面にあたる。今年度の工事は牧丘第三小学校グラウンド北に接する斜面の東半分が対象となる。工事の概要は、既存の擁壁と落石防止柵を撤去したのち新たな擁壁を施工し、擁壁上方の斜面に法枠工を実施するものである。新しい擁壁建設に伴う掘削は既存の擁壁設置時の掘削範囲を超えない。

当該斜面は急傾斜で、所々で表層の崩れがあり、巨礫の浮き石が散在している。斜面とグラウンドとの傾斜変換はシャープであり、斜面基部を削平してグラウンドを造成した様子が伺える。

以上のように、斜面の形状や地形の人工改変の状態から、当該地に押出沢遺跡の範囲が拡張される可能性はなく、埋蔵文化財の保護措置は必要がないと判断される。



第1図 押出沢急傾斜地崩壊対策事業位置図



第2図 立会調査位置図



調査地点遠望



調査地点状況

20 国立公園等整備事業三湖台園地整備事業 立会

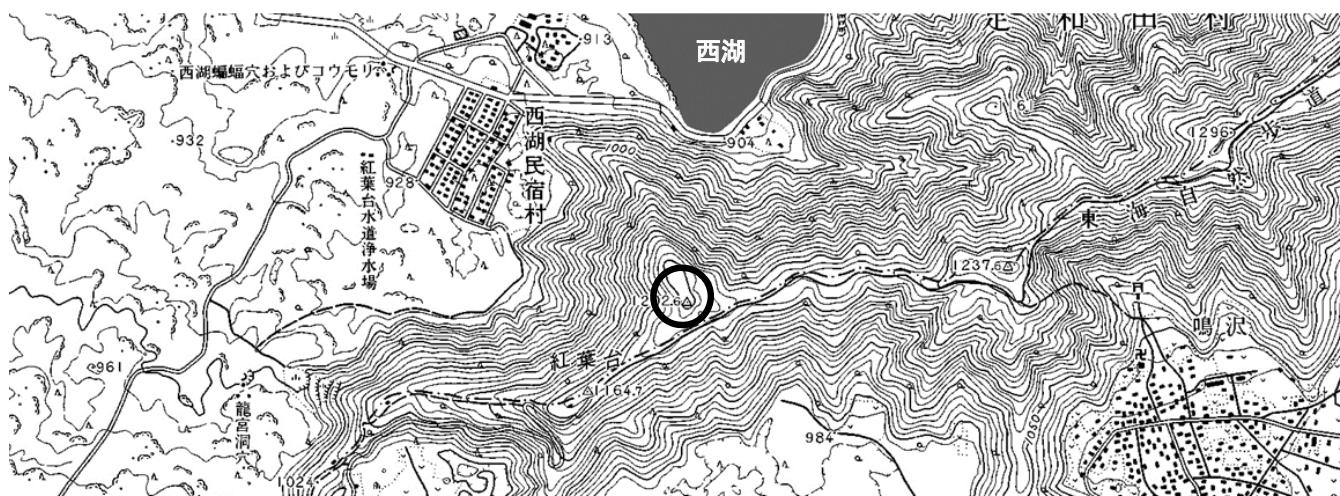
所在地	南都留郡富士河口湖町西湖地内	調査期間	平成26年5月20日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	15m ²

調査経緯及び事業内容と結果

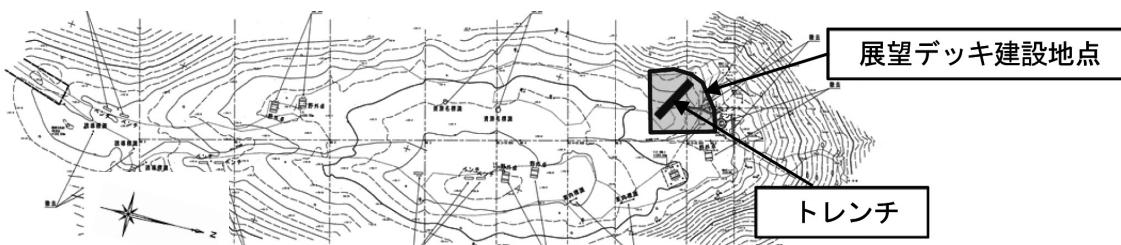
三湖台は西湖の南に位置する御坂山地の稜線上に位置し、展望がきくなどの立地条件から当地が遺跡地の可能性があるため立会調査を実施した。三湖台は標高1202mをピークとして南北に長い平坦面を有する。平坦面上は裸地が広がり、周辺部には雨水の侵食による小谷が認められる。また、過去の園地整備により掘削や改変がなされている様子がうかがえる。

本事業は三湖台園地の再整備であり、老朽化した標識、ベンチ、野外卓などの更新や展望デッキを新設する工事である。立会調査は、工事による掘削深の深い展望デッキ建設予定地（園地北端の緩斜面部分）において、重機でトレーナー（幅2m、長さ8m、深さ0.5m）を掘削した後、遺構・遺物の確認や土層断面の観察を行った。その結果、展望デッキ建設予定地のほとんどは、過去に存在した売店や残存する石垣の設置の際に大きく掘削され攪乱を受けていた。また、遺構・遺物の検出も無かった。その他の地点では地表面および小谷周辺を観察したが、遺構・遺物は検出できなかった。

以上から、今回の立会した工事区間において埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。



第1図 国立公園等整備事業三湖台園地整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



調査地からの眺望

調査地点の状況

トレーナー掘削状況

掘削断面

21 曽根丘陵公園水道管移設事業 立会

所在地	甲府市下曽根町地内	調査期間	平成26年5月7日・8日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	20m ²

調査経緯及び事業内容と結果

曽根丘陵公園内の考古博物館南に位置する園路の下に埋設されている水道管移設に伴う掘削工事において、当該地が岩清水遺跡隣接地であることから立会調査を実施した。

立会調査は重機と人力によって幅約2m長さ約5mのトレーナーを3箇所掘削した。深さは水道管が検出された地表下約150cmまでである。当初は2箇所の掘削を想定していたが、橋の南西側において水道管が想定した箇所から検出できなかったため、3箇所を掘削することになった。

現園路面から水道管が埋設してある地表下約150cmのまではアスファルト、碎石、砂質土などの既掘削工事による人為的な整地土層であった。水道管より下位は地山層と思われる暗茶褐色粘質土層であり、5～10cm程度を掘削したが遺構・遺物は検出されなかった。以上から立会調査地において埋蔵文化財の保護措置は必要なく、工事を進めて問題ないと判断される。



第1図 曽根丘陵公園水道管移設事業位置図



第2図 立会調査位置図



1T土層堆積状況

2T土層堆積状況

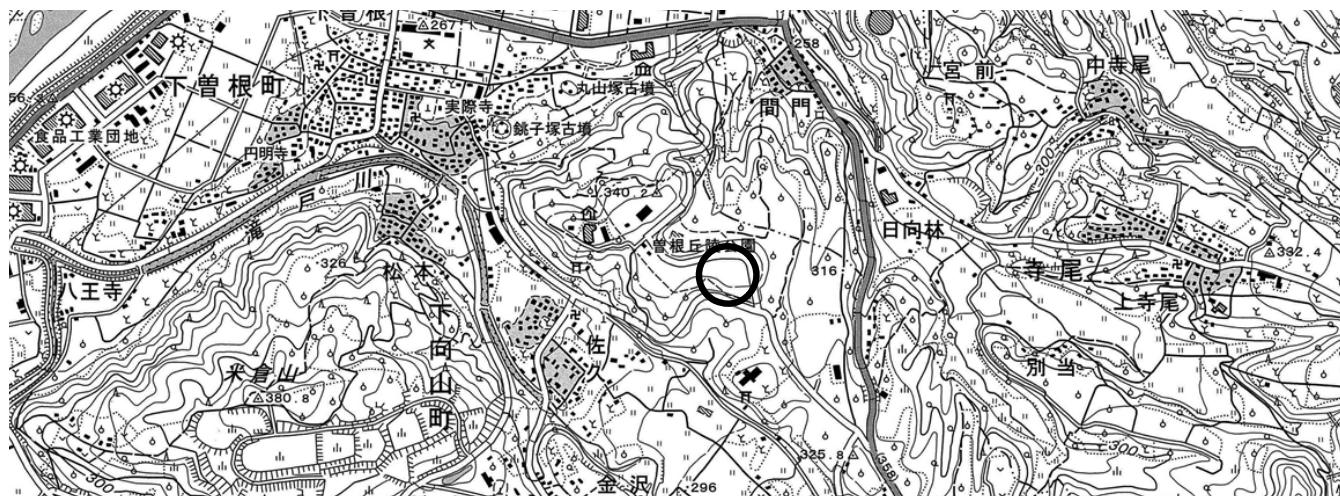
22 曽根丘陵公園方形周溝墓広場ベンチ等撤去事業 立会 《上の平遺跡》

所在地	甲府市下向山町地内	調査期間	平成26年5月6日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	5m ²

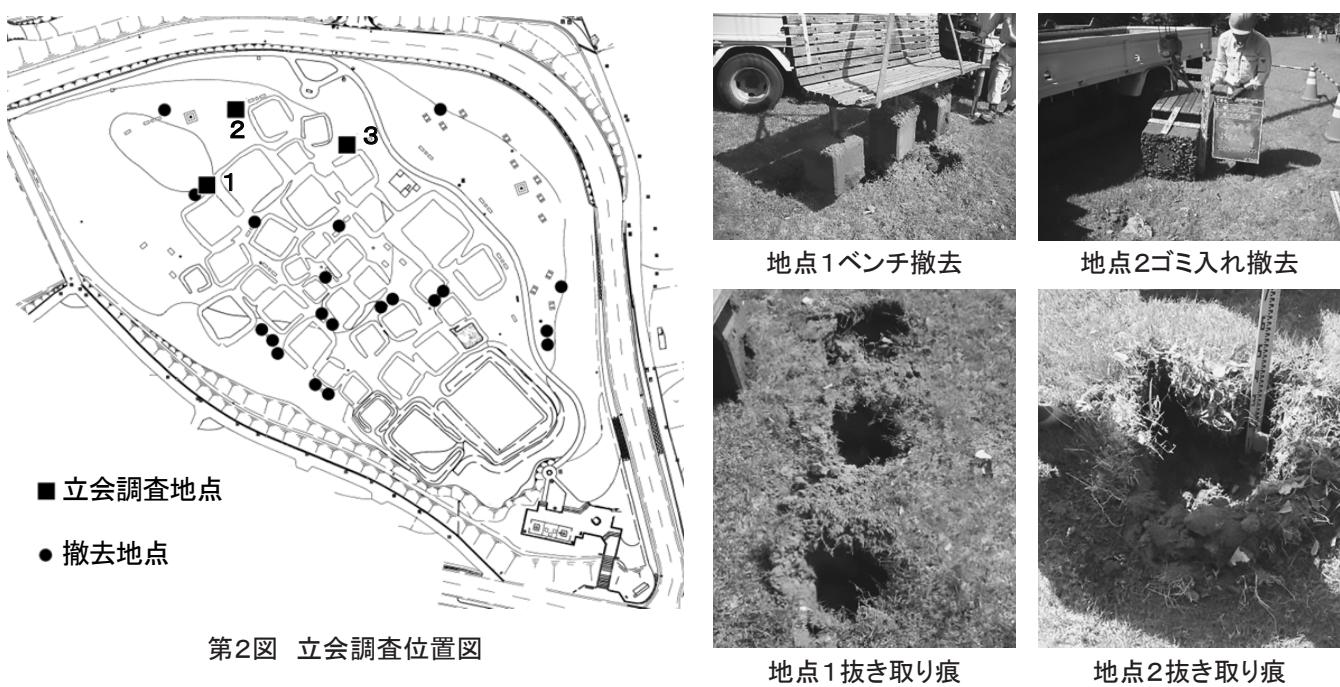
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は曾根丘陵公園南部の方形周溝墓広場において、ベンチ、縁台、野外卓、吸い殻入れ、ゴミ入れなどのうち老朽化したものを撤去する工事である。方形周溝墓広場は、多くの方形周溝墓が検出された上の平遺跡に該当することから立会調査を実施した。現在の広場には、復元方形周溝墓3基とレンガと植栽による表面表示方形周溝墓32基があり、その他の部分は芝生が植えられベンチ等が設置されている。これらの施設は方形周溝墓の遺構を埋設保存するため1mの盛り土を行って造作されている。

ベンチ等は重機によりコンクリートの基礎ごと抜き取って撤去した。立会調査ではベンチ・くず入れ・吸い殻入れの抜き取り痕を観察した。抜き取りによる掘削の規模は最大でも50cm四方、深さ50cm程度で有り、調査地点すべてで芝生と数cmの表土につづき、掘削深度まで盛り土であった。前述のとおり広場は1mの盛り土を施し造作されており、立会調査によって本事業では埋設保存されている遺構には影響を与えないことが確認された。



第1図 曽根丘陵公園方形周溝墓広場ベンチ等撤去事業位置図



第2図 立会調査位置図

地点1抜き取り痕

地点2抜き取り痕

23 曽根丘陵公園水道漏水改修事業 立会

所在地	甲府市下向山町地内	調査期間	平成26年10月27日
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎	調査面積	6m ²

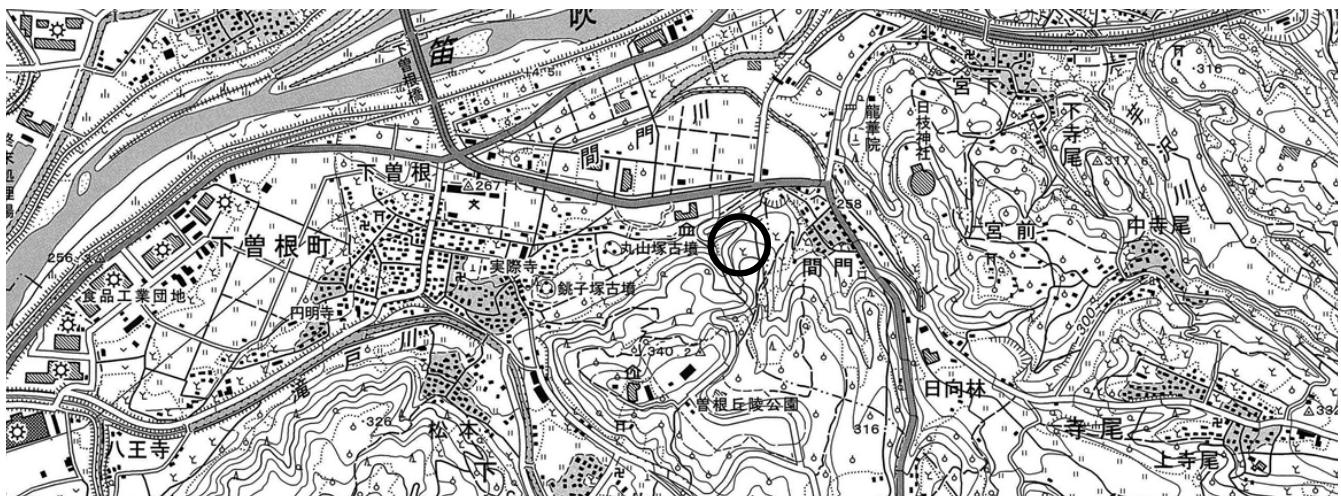
調査経緯及び事業内容と結果

曾根丘陵公園内の管理用道路下に敷設してある水管の漏水改修工事に伴い、当地点が東山北遺跡隣接地であることから遺跡が拡張される可能性があるため現地立会調査を実施した。

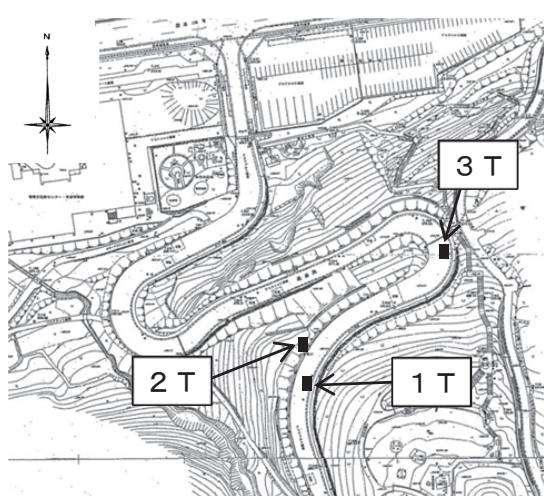
工事は重機と人力によって約1m×2mのトレーンチを水管が露出するまで3箇所掘削した。第1トレーンチおよび第3トレーンチは管理用道路上に位置し、第2トレーンチは止水栓と散水栓がある道路脇路肩に位置する。掘削深度は第1トレーンチで約120cm、第2トレーンチで約90cm、第3トレーンチで約120cmであった。

第1トレーンチはアスファルトの下は水管まで碎石層であり、トレーンチ底面に茶褐色粘質土層が認められた。茶褐色粘質土層の掘削は数cm程度であり、遺構・遺物は検出されなかった。第2トレーンチは表土層（層厚20cm）の下に茶褐色土層が認められたが、止水栓と散水栓を埋設した時の埋戻し土が主体で新規の掘削はほとんどなく遺構・遺物は検出されなかった。第3トレーンチはアスファルトの下は碎石層、発生土層、砂層で、新規の掘削はなく遺構・遺物は検出されなかった。

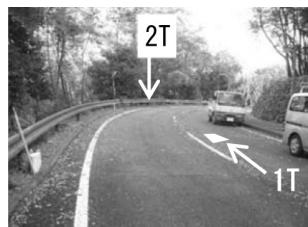
いずれのトレーンチもほとんどが既掘削範囲内の掘削であり、遺構・遺物の検出はなく工事は終了した。



第1図 曽根丘陵公園水道漏水改修事業位置図



第2図 立会調査位置図



1T・2T調査前状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

報 告 書 抄 錄

ふりがな	やまなしけんないぶんぶちょうさほうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（平成26年）
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	307集
編者名	吉岡弘樹・浅川一郎
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 Tel 055-266-3016
発行年月日	2015年3月25日

事 業 名 ・ 遺 跡 名	所 在 地	調査面積	調査対象面積	調 査 期 間
1 国道20号大月バイパス建設事業（JR地区）	大月市花咲地内	600m ²	10,000m ²	平成26年1月14日～3月7日
2 都市計画道路「古府中環状浅原橋線」街路事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央二丁目12-19	10m ²	100m ²	平成26年6月4日
3 甲府駅南口周辺地域修景計画事業（中央分離帯）《甲府城下町遺跡》	甲府市丸の内一丁目2-9隣接地	29m ²	800m ²	平成26年8月20日・9月19日
4 新山梨環状道路東部区間建設事業（甲府市小曲町地内）	甲府市小曲町地内	478.2m ²	16500m ²	平成26年8月25日～8月29日
5 国道141号絵見堂交差点改良事業《宮ノ前第4遺跡・宮木遺跡》	韮崎市藤井町駒井・韮崎市藤井町北下條地内	24.75m ²	368m ²	平成26年9月24日
6 県営住宅富浜団地駐車場整備事業《南堀之内遺跡》	大月市富浜町鳥沢3263-1	18m ²	500m ²	平成26年4月28日
7 県営住宅一宮団地駐車場整備事業《北中原遺跡》	笛吹市一宮町塩田590-1	10m ²	980m ²	平成26年6月11日
8 県営住宅八田団地駐車場整備事業《坂の上姥塚遺跡》	南アルプス市徳永1690	10.5m ²	600m ²	平成26年10月1日
9 韮崎警察署穴山駐在所移転新築事業《能見城跡》	韮崎市穴山4316-2	23m ²	91m ²	平成26年6月9日
10 県立かえで支援学校体育馆建設事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川1400	47m ²	800m ²	平成26年9月11日
11 曾根丘陵公園整備関連《鍋弦塚東遺跡》	甲府市下向山町地内	44m ²	44m ²	平成26年5月19日～5月23日
12 甲府地方家庭裁判所都留支部本庁舎解体事業《谷村城跡》	都留市中央二丁目1-1	10m ²	10m ²	平成26年1月23日・27日・28日
13 都留高等技術専門校校舎解体事業《沖大原遺跡》	都留市小形山1	13m ²	13m ²	平成26年1月7日
14 県立かえで支援学校分教室格技場他解体事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川1400	54m ²	54m ²	平成26年2月6日
15 県立都留興譲館高校第一期建設電気設備事業《三ノ側遺跡》	都留市上谷五丁目7-1	10m ²	10m ²	平成26年6月6日
16 駒沢川改修事業《熊野南遺跡・桜田遺跡》	笛吹市春日居町鎮目526-3、526-4外	12m ²	12m ²	平成26年4月10日
17 火打石急傾斜地崩壊対策事業《火打石遺跡》	南巨摩郡南部町福士23400	40m ²	40m ²	平成26年6月2日
18 船久保急傾斜地崩壊対策事業《馬場道上遺跡》	南巨摩郡南部町内船地内	10m ²	10m ²	平成26年6月10日
19 押手沢急傾斜地崩壊対策事業《押出沢遺跡》	山梨市牧丘町牧平16	300m ²	300m ²	平成26年6月12日
20 国立公園等整備事業三湖台園地整備事業	南都留郡富士河口湖町西湖地内	15m ²	15m ²	平成26年5月20日
21 曾根丘陵公園水道管移設事業	甲府市下曾根町地内	20m ²	20m ²	平成26年5月7日・8日
22 曾根丘陵公園方形周溝墓広場ベンチ等撤去事業《上の平遺跡》	甲府市下向山町地内	5m ²	5m ²	平成26年5月19日
23 曾根丘陵公園水道管漏水修理事業	甲府市下向山町地内	6m ²	6m ²	平成26年10月27日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第307集 山梨県内分布調査報告書（平成26年）

印刷日 2015（平成27）年3月20日
 発行日 2015（平成27）年3月25日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
 Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
 発行 山梨県教育委員会
 印刷所 株式会社 峠南堂印刷所